

平成18年6月30日

**琉球大学大学院保健学研究科  
保健学専攻（博士後期課程）  
設置計画書**

**（抜 刷）**

**国立大学法人 琉球大学**

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院保健学研究科博士後期課程の設置								
フリガナ者	コクリツダイガクホウジン リュウキョウガク 国立大学法人 琉球大学								
フリガナ大学の名称	リュウキョウダイガク 琉球大学 (University of the Ryukyus)								
大学本部の位置	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地								
大学の目的	<p>本学の「自由平等、寛容平和」という建学の精神と、「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」という基本理念に基づき、教育を重視する大学としての姿勢を堅持しつつ、世界水準の研究を推進する。また、地域社会や国際社会のニーズに応え、積極的に活躍する優れた人材を育成するために、本学はアジア・太平洋地域における卓越した教育研究拠点としての大学づくりを目指す。</p>								
新設学部等の目的	<p>21世紀日本の超高齢社会における最重要課題は健康・長寿である。沖縄県は世界でも長寿地域として注目されているが、近年は健康長寿の存続が危惧されている。また、熱帯・亜熱帯地域における国々では感染症、さらには生活習慣病が大きな疾病負担となっている。これらの熱帯・亜熱帯地域に特有な健康問題解決や健康の保持増進を目的とする諸科学を統合した総合科学としての保健学的アプローチの研究・実践の場として、琉球大学は最適の場所に位置している。</p> <p>これらの研究・実践の場として最適な条件を活かし、保健学研究科博士後期課程では、熱帯・亜熱帯地域における心身ともに豊かな健康・長寿に資する幅広い学識と高度な研究能力を有する保健医療分野の研究者及び指導者を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設の時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部 医学部保健学科 保健学研究科修士課程 14条特例の実施
	保健学研究科 Graduate School of Health Sciences 保健学専攻 Health Sciences Course (博士後期課程)	年 3	人 3	人 -	人 9	博士 (保健学)	平成19年 4月1日 第1年次	沖縄県中頭郡 西原町字上原 207番地	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		現行の保健学研究科修士課程を保健学研究科博士前期課程へ名称変更する。							

教育課程	設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	18 科目	- 科目	4 科目	22 科目	14 単位		
教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					助手	兼任教員
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	保健学研究科(博士後期課程) 保健学専攻	人 12 (13)	人 - (-)	人 - (-)	人 - (-)	人 12 (13)	人 - (-)	人 1 (-)
	計	12 (13)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (13)	- (-)	1 (-)
既設分	医学研究科(博士課程) 医科学専攻	31 (31)	31 (31)	- (-)	- (-)	62 (62)	- (-)	- (-)
	感染制御医科学専攻	7 (7)	6 (6)	- (-)	- (-)	13 (13)	- (-)	- (-)
既設分	医学研究科(修士課程) 医科学専攻	28 (28)	29 (29)	- (-)	- (-)	57 (57)	- (-)	- (-)
	保健学研究科(修士課程) 保健学専攻	15 (16)	9 (9)	- (-)	- (-)	24 (25)	- (-)	1 (-)
既設分	法務研究科 法務専攻(専門職学位課程)	13 (13)	6 (6)	- (-)	- (-)	19 (19)	- (-)	9 (9)
	人文社会科学研究科(博士後期課程) 比較地域文化専攻	16 (16)	1 (1)	- (-)	- (-)	17 (17)	- (-)	3 (3)
既設分	人文社会科学研究科(博士前期課程) 比較地域文化専攻	23 (23)	17 (17)	- (-)	- (-)	40 (40)	- (-)	- (-)
	人間科学専攻	18 (18)	9 (9)	- (-)	- (-)	27 (27)	- (-)	- (-)
既設分	国際言語文化専攻	19 (19)	18 (18)	- (-)	- (-)	37 (37)	- (-)	- (-)
	教育学研究科(修士課程) 学校教育専攻	6 (6)	3 (3)	3 (3)	- (-)	12 (12)	- (-)	6 (6)
既設分	障害児教育専攻	3 (3)	2 (2)	- (-)	- (-)	5 (5)	- (-)	- (-)
	臨床心理学専攻	4 (4)	1 (1)	1 (1)	- (-)	6 (6)	- (-)	- (-)
既設分	教科教育専攻	48 (48)	30 (30)	3 (3)	- (-)	81 (81)	- (-)	12 (12)
	理工学研究科(博士後期課程) 生産エネルギー工学専攻	26 (26)	10 (10)	- (-)	- (-)	36 (36)	- (-)	- (-)
既設分	総合知能工学専攻	27 (27)	12 (12)	- (-)	- (-)	39 (39)	- (-)	- (-)
	海洋環境学専攻	23 (23)	9 (9)	- (-)	- (-)	32 (32)	- (-)	- (-)

教 員 組 織 の 概 要	理工学研究科（博士前期課程） 機械システム工学専攻		11 ( 11)	11 ( 11)	- ( -)	- ( -)	22 ( 22)	- ( -)	- ( -)		
	環境建設工学専攻		11 ( 11)	7 ( 7)	- ( -)	- ( -)	18 ( 18)	- ( -)	- ( -)		
	電気電子工学専攻		9 ( 9)	7 ( 7)	- ( -)	- ( -)	16 ( 16)	- ( -)	- ( -)		
	情報工学専攻		7 ( 7)	4 ( 4)	- ( -)	- ( -)	11 ( 11)	- ( -)	- ( -)		
	数理科学専攻		9 ( 9)	7 ( 7)	- ( -)	- ( -)	16 ( 16)	- ( -)	- ( -)		
	物質地球科学専攻		12 ( 12)	7 ( 7)	3 ( 3)	- ( -)	22 ( 22)	- ( -)	- ( -)		
	海洋自然科学専攻		20 ( 20)	13 ( 13)	2 ( 2)	- ( -)	35 ( 35)	- ( -)	- ( -)		
	農学研究科（修士課程） 生物生産学専攻		13 ( 13)	9 ( 9)	- ( -)	- ( -)	22 ( 22)	- ( -)	- ( -)		
	生産環境学専攻		9 ( 9)	6 ( 6)	- ( -)	- ( -)	15 ( 15)	- ( -)	- ( -)		
	生物資源科学専攻		4 ( 4)	6 ( 6)	- ( -)	- ( -)	10 ( 10)	- ( -)	- ( -)		
	計		412 ( 413)	270 ( 270)	12 ( 12)	- ( -)	694 ( 695)	- ( -)	31 ( 30)		
合 計		424 ( 426)	270 ( 270)	12 ( 12)	- ( -)	706 ( 708)	- ( -)	32 ( 30)			
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事務職員		286 ( 286)		0 ( 0)		286 ( 286)				
	技術職員		118 ( 118)		0 ( 0)		118 ( 118)				
	図書館専門職員		20 ( 20)		0 ( 0)		20 ( 20)				
	その他の職員		56 ( 56)		0 ( 0)		56 ( 56)				
	計		480 ( 480)		0 ( 0)		480 ( 480)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校 等の専用等		計		貸与者 ・沖縄県 ・沖縄森林 管理署 借用期間 H.18.4.1~ H.19.3.31 (1年更新)
	校舎敷地		584,990 m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		584,990 m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )		
	運動場用地		93,280 m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		93,280 m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )		
	小 計		678,270 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		678,270 m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )		

校地等	その他	7,744,548 m <sup>2</sup> (6,981,452 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	7,744,548 m <sup>2</sup> (6,981,452 m <sup>2</sup> )				
	合計	8,422,818 m <sup>2</sup> (6,981,452 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	8,422,818 m <sup>2</sup> (6,981,452 m <sup>2</sup> )				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用等	計	大学全体				
					157,117 m <sup>2</sup> (157,117m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	157,117 m <sup>2</sup> (157,117m <sup>2</sup> )	
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	96室	97室	289室	10室 (補助職員3人)	10室 (補助職員2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)		17室					
図書設備	計画研究科等の名称	図書〔外国書〕冊	学術雑誌〔外国書〕種	電子ジャーナル(外国書)	視聴覚資料点	機械・器具点	標本点		
	保健学研究科 (保健学専攻)	120,050 [62,363] (120,050 [62,363])	4,272 [2,528] (4,272 [2,528])	2,528 [2,528] (2,528 [2,528])	913 (913)	2,352 (2,352)	21 (21)		
	計	577,278 [175,110] (577,278 [175,110])	12,303 [4,210] (12,303 [4,210])	2,528 [2,528] (2,528 [2,528])	913 (913)	2,352 (2,352)	21 (21)		
図書館		面積	閲覧座席数	収納可能冊数			大学全体		
		9,938 m <sup>2</sup>	860席	1,007,750冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5,245 m <sup>2</sup>	グラウンド, サッカー場, 野球場, プールその他						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	-千円	-千円	図書購入費	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等	-千円	-千円	設備購入費	-千円	-千円	-千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
-千円		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし						

既 設 大 学 等 の 状 況	大学の名称	琉球大学							
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
		年	人	年次 人	人	倍		年	
	医学研究科 (博士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字上原207番地
	医科学専攻	4	25	—	100	博士(医学)	0.92	平成15年度	
	感染制御医科学専攻 (修士課程)	4	13	—	52	博士(医学)	0.61	平成15年度	
	医科学専攻	2	15	—	30	修士(医科学)	0.60	平成16年度	
	保健学研究科 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字上原207番地
	保健学専攻	2	10	—	20	修士(保健学)	1.20	昭和61年度	
	人文社会科学研究科 (博士後期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	比較地域文化専攻	3	4	—	12	博士(学術)	1.50	平成18年度	
	人文社会科学研究科 (博士前期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	総合社会システム専攻	2	21	—	42	修士(法学、政治学、経済学、経営学)	0.95	平成13年度	
	人間科学専攻	2	17	—	34	修士(社会学、教育学、心理学、哲学、経済学、地理学、学術)	0.88	平成13年度	
	国際言語文化専攻	2	13	—	26	修士(文学、歴史学、言語科学)	0.84	平成13年度	
	教育学研究科 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	学校教育専攻	2	5	—	10	修士(教育学)	1.80	平成2年度	
	障害児教育専攻	2	3	—	6	修士(教育学)	0.66	平成18年度	
	臨床心理学専攻	2	3	—	6	修士(教育学)	5.33	平成18年度	
	教科教育専攻	2	24	—	48	修士(教育学)	1.00	平成2年度	
	理工学研究科 (博士後期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	生産エネルギー工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	1.00	平成9年度	
	総合知能工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	2.33	平成9年度	
	海洋環境学専攻	3	5	—	15	博士(理学、学術)	1.80	平成10年度	
	理工学研究科 (博士前期課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	機械システム工学専攻	2	22	—	44	修士(工学)	0.86	平成9年度	
	環境建設工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成9年度	
	電気電子工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成9年度	
	情報工学専攻	2	12	—	24	修士(工学)	1.50	平成9年度	
	数理学専攻	2	12	—	24	修士(理学)	0.75	平成10年度	
	物質地球科学専攻	2	20	—	40	修士(理学)	0.85	平成10年度	
	海洋自然科学専攻	2	26	—	52	修士(理学)	1.26	平成10年度	
	農学研究科 (修士課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	生物生産学専攻	2	16	—	32	修士(農学)	1.00	昭和52年度	
	生産環境学専攻	2	12	—	24	修士(農学)	1.00	昭和52年度	
	生物資源科学専攻	2	12	—	24	修士(農学)	0.91	昭和52年度	
	法務研究科 (専門職学位課程)								沖縄県中頭郡西原町 字千原1番地
	法務専攻	3	30	—	90	法務博士(専門職)	1.00	平成16年度	

既設大学の状況	大学の名称	琉球大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	医学部	年	人	年次人	人		倍	年	沖縄県中頭郡 西原町字上原207番地
	医学科	6	95	5	590	学士(医学)	1.00	昭和54年度	
	保健学科	4	60	—	240	学士(保健学)	1.06	昭和56年度	
	法文学部								沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
	総合社会システム学科 (昼間主コース)	4	215	12	884	学士(法学、 経済学、経営学、政策科 学・国際関係論、総合社 会システム学)	1.06	平成9年度	
	総合社会システム学科 (夜間主コース)	4	50	8	216	学士(法学、 経済学、経営学、政策科 学・国際関係論、総合社 会システム学)	1.10	平成9年度	
	観光科学科	4	40	—	160	学士(経営学)	1.02	平成17年度	
	人間科学科	4	95	3	386	学士(人文社会)	1.05	平成9年度	
	国際言語文化学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	学士(人文学)	1.07	平成9年度	
	国際言語文化学科 (夜間主コース)	4	30	4	128	学士(人文学)	1.06	平成9年度	
	教育学部								沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
	学校教育教員養成課程	4	100	—	400	学士(教育学)	1.09	平成11年度	
	生涯教育課程	4	90	—	360	学士(教育学)	1.02	平成11年度	
	理学部								沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
	数理科学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.02	平成8年度	
	物質地球科学科	4	65	—	260	学士(理学)	1.07	平成8年度	
	海洋自然科学科	4	95	—	380	学士(理学)	1.04	平成8年度	
	工学部								沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
	機械システム工学科 (昼間主コース)	4	90	3	366	学士(工学)	1.01	平成5年度	
	機械システム工学科 (夜間主コース)	4	20	—	80	学士(工学)	1.05	平成5年度	
	環境建設工学科	4	90	4	368	学士(工学)	1.05	平成5年度	
	電気電子工学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	学士(工学)	1.11	平成5年度	
	電気電子工学科 (夜間主コース)	4	10	—	40	学士(工学)	1.60	平成5年度	
	情報工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成5年度	
	農学部								沖縄県中頭郡 西原町字千原1番地
	生物生産学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.03	平成3年度	
	生産環境学科	4	40	—	160	学士(農学)	1.22	平成3年度	
	生物資源科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.11	平成3年度	
	附属施設の概要	該当なし							

教育課程等の概要														
(保健学研究科博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	(計画分) 保健学特別講義	1	2			○			5					
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—	—	—	5	0	0	0	0	0
専門科目	人間健康開発学特論	1	2			○			4					
	健康増進開発学特論	1・2		2		○			1					
	健康長寿看護学特論	1・2		2		○			1					
	人間行動開発学特論	1・2		2		○								
	母子支援看護学特論	1・2		2		○			1					
	高齢期支援看護学特論	1・2		2		○			1					
	緩和看護学特論	1・2		2		○			1					
	生理機能解析学特論	1・2		2		○			1					
	生体代謝解析学特論	1・2		2		○								
	生体機能解析学特論	1・2		2		○			1					
	特別研究Ⅰ	1	4					○	7					
	特別研究Ⅱ	2	4					○	7					
小計 (12科目)	—	10	18	0	—	—	—	7	0	0	0	0	0	
国際島嶼保健学領域科目	国際島嶼保健学特論	1	2			○			3					
	国際環境保健学特論	1・2		2		○			1					
	国際小児保健学特論	1・2		2		○			1					
	島嶼地域看護学特論	1・2		2		○			1					
	感染看護学特論	1・2		2		○			1					
	血液免疫解析学特論	1・2		2		○			1					
	形態病態解析学特論	1・2		2		○								
	特別研究Ⅰ	1	4					○	5					
	特別研究Ⅱ	2	4					○	5					
小計 (9科目)	—	10	12	0	—	—	—	5	0	0	0	0	0	
合計 (22科目)		—	22	30	0	—	—	—	12	0	0	0	0	0
学位又は称号	博士 (保健学)			学位又は学科の分野	保健学									
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
本研究科に3年以上在学し、14単位 (共通教育科目1科目2単位は必修、領域必修3科目10単位は必修、当該指導教員が提供する1科目2単位は必修) 以上を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関して、本研究科が優れた研究業績をあげたと認めた場合には、2年以上在学すれば修了を認めることがある。								1学年の学期区分				2期		
								1学期の授業期間				16週		
								1時限の授業時間				90分		



教育課程等の概要

(保健学研究科修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	(既存分)															
	沖縄保健医療特論	1	2			○			11	2						
	国際保健医療学特論	1	2			○			10							
	小計(2科目)	-	4	0	0	-	-	-	15	2	0	0	0			
専門科目 保健管理学分野科目	学校保健管理学特論	1・2		2		○			1							
	学校保健管理学特別演習	1・2		2			○		1							
	臨床心理学特論	1・2		2		○										
	臨床心理学特別演習	1・2		2			○									
	小児保健学特論	1・2		2		○			1							
	小児保健学特別演習	1・2		2			○		1							
	環境保健学特論	1・2		2		○			1							
	環境保健学特別演習	1・2		2			○		1							
	特別研究	1・2	8					○	3							
	小計(9科目)	-	8	16	0	-	-	-	3	0	0	0	0			
保健医療学分野科目	基礎看護学特論Ⅰ	1・2		2		○			1							
	基礎看護学特別演習Ⅰ	1・2		2			○		1							
	基礎看護学特論Ⅱ	1・2		2		○				1						
	基礎看護学特別演習Ⅱ	1・2		2			○			1						
	成人看護学特論	1・2		2		○			1							
	成人看護学特別演習	1・2		2			○		1							
	地域看護学特論	1・2		2		○			1							
	地域看護学特別演習	1・2		2			○		1							
	精神保健看護学特論	1・2		2		○			1							
	精神保健看護学特別演習	1・2		2			○		1							
	薬剤情報学特論	1・2		2		○			1							
	薬剤情報学特別演習	1・2		2			○		1							
	母子看護学特論	1・2		2		○			1							
	母子看護学特別演習	1・2		2			○		1							
	老年看護学特論	1・2		2		○			1							
	老年看護学特別演習	1・2		2			○		1							
	特別研究	1・2	8					○	7							
	以下専門看護師教育課程対応授業科目															
	看護管理学特論	1		2		○			1							
	看護理論特論	1		2		○			1							
	看護研究特論	1		2		○			1							
	コンサルテーション論	1		2		○			1							
	がん治療学特論	1		2		○			4							
がん看護援助特論	1・2		2		○			1								
緩和ケア特論	1・2		2		○			1								
緩和ケア特別演習	1・2		2			○		1								
成人看護学特別実習	2		6				○	1								
小計(26科目)	-	8	54	0	-	-	-	7	1	0	0	0				
保健技術学分野科目	保健微生物学特論	1・2		2		○				1						
	保健微生物学特別演習	1・2		2			○			1						
	生体機能学特論	1・2		2		○			1							
	生体機能学特別演習	1・2		2			○		1							
	臨床生化学特論	1・2		2		○			1							
	臨床生化学特別演習	1・2		2			○		1							
	形態病理学特論	1・2		2		○			1							
	形態病理学特別演習	1・2		2			○		1							
	臨床生理学特論	1・2		2		○			1							
	臨床生理学特別演習	1・2		2			○		1							
	血液免疫学特論	1・2		2		○			1							
血液免疫学特別演習	1・2		2			○		1								
特別研究	1・2	8					○	5								
小計(13科目)	-	8	24	0	-	-	-	5	1	0	0	0				
合計(50科目)			-	28	96	0	-	-	15	2	0	0	0			
学位又は称号	修士(保健学)		学位又は学科の分野				保健学									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
本研究科に2年以上在学し、30単位(共通教育科目2科目4単位は必修、当該指導教員が提供する3科目12単位は必修、所属する教育研究分野から8単位、他の分野から6単位は選択)以上を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関して、本研究科が優れた研究業績をあげたと認めた場合には、1年以上在学すれば修了を認めることがある。								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		16週						
								1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要														
(保健学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (教養領域)	(既存分)													
	人間と世界	1・2		2		○						1		
	思考の論理入門	1・2		2		○			1	1				
	思考の論理	1・2		2		○			1	1				
	西洋思想とインドの思想	1・2		2		○			1					
	生き方の探求	1・2		2		○			1					
	人間と論理	1・2		2		○					1			
	環境の哲学	1・2		2		○					1			
	心の科学	1・2		2		○			1	2				
	人間関係論	1・2		2		○			1	2				
	心の実験室	1・2		1				○		1				
	アジアの人生観	1・2		2		○			1					
	科学技術の倫理	1・2		2		○					1			
	生命倫理	1・2		2		○			1					
	「私」の哲学	1・2		2		○				1				
	近代日本の社会と表現	1・2		2		○				1				
	文学の楽しみ	1・2		2		○				1				
	小説の社会学	1・2		2		○				1				
	ことばの構造と意味	1・2		2		○				1				
	中国古典文学の世界	1・2		2		○			1					
	歴史を掘る	1・2		2		○			1					
	東洋の歴史と文化	1・2		2		○			1					
	西洋の歴史と文化	1・2		2		○			1	1				
	考古学入門	1・2		2		○				1				
	美術の世界	1・2		2		○			1	1				
	オーケストラの楽しみ	1・2		2				○	1					
	コーラル・アンサンブルの楽しみ	1・2		2				○		1				
	楽しく学ぶギター弾き語りⅠ	1・2		2				○		1				
	楽しく学ぶギター弾き語りⅡ	1・2		2				○		1				
	美術って何?	1・2		2		○			1					
	美術と社会	1・2		2		○				1				
	染織の世界	1・2		2		○			1					
陶芸の世界	1・2		2		○			1						
小計 (32科目)		-	0	63	0			-	17	19	4	0	0	
健康運動	健康と運動の科学Ⅰ	1・2	1			○			3	1	1			
	健康・運動実技	1・2	1					○	7	4	2	1		
	小計 (2科目)		-	2	0	0			10	5	3	1	0	
社会系科目	法と社会	1・2		2		○			2					
	憲法概論	1・2		2		○			1	2				
	現代政治の課題	1・2		2		○				1				
	日本の政治	1・2		2		○					1			
	戦争と平和の諸問題	1・2		2		○			1					
	現代アジア論	1・2		2		○				1				
	地域と生活	1・2		2		○			1	1				
	現代社会のしくみ	1・2		2		○			1	1				
	マスコミと社会	1・2		2		○				1				
	人類文化の比較	1・2		2		○			1	2				
	大学教育入門—社会編—	1・2		2		○			1					
	消費者の自立	1・2		2		○			1					
	現代経済のしくみ	1・2		2		○			1	3	1			
	経済の歴史	1・2		1		○			1					
	現代経営のしくみ	1・2		2		○				1				
	現代会計のしくみ	1・2		2		○					1			
小計 (16科目)		-	0	31	0			-	11	13	3	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	白山	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目 (教養領域)	自然系科目	ヒトの健康科学	1・2	2			○			1							
		地球の科学	1・2	2			○			1	1						
		海洋の科学	1・2	2			○			2	1			1			
		宇宙の科学	1・2	2			○					1					
		統計と社会	1・2	2			○			1							
		数理の構造	1・2	2			○			1							
		数の文化	1・2	2			○			1							
		時間と空間	1・2	2			○				1						
		人間と物理学	1・2	2			○				1						
		生物の生活	1・2	2			○			5	1						
		生命の科学	1・2	2			○			1							
		コンピュータグラフィクス	1・2	2					○	1							
		生活空間の計画	1・2	2			○				1						
		ランドスケープ論	1・2	2			○			1	1				1		
		環境デザイン論	1・2	2			○			1					1		
		遺伝学入門	1・2	2			○			2							
	小計 (16科目)	-	2	30	0		-		18	7	1	4	0				
共通教育科目 (総合領域)	総合科目	一般総合科目	脳の発達と人間	1・2	2			○									
			住まいの科学	1・2	2			○				2					
			環境の保全	1・2	2			○				1					
			環境問題	1・2	2			○			1						
			地球環境と人間	1・2	2			○				1					
			ヒトの科学と人間の医学	1・2	2			○			8						
			動物実験の基礎	1・2	2			○			2	4					
			遺伝子の話	1・2	2			○				1					
			先端情報工学概論	1・2	2			○			4						
			森の文化史	1・2	2			○				1					
			死と哲学の知	1・2	2			○			1						
			科学と擬似科学	1・2	2			○			1						
			環境保全型農業	1・2	2			○			1						
			自由と民主主義の研究	1・2	2			○			3	2					
			キャリア概論	1・2	2			○				1					
			高齢社会を生きる	1・2	2			○			4	3					
			人口と食糧	1・2	2			○			5	2					
			職業と人生	1・2	2			○			1						
			頭脳を鍛える囲碁入門	1・2	2			○			1						
			キャンパス・エコライフ：理論と実践	1・2	2			○			1						
	大学間共同授業	1・2	2			○				1							
	総合特別講義 I	1・2	2			○			1								
	高学年次総合科目	倫理総合討論	3・4	2			○			1							
		現代アメリカ論	3・4	2			○			5	2						
		女性学	3・4	2			○			2	1					看護コース必修	
		地震と防災	3・4	2			○			1							
		環境影響評価概論	3・4	2			○			1							
	小計 (27科目)	-	0	54	0		-		45	22	0	0	0				
琉大特色科目	核の科学	1・2	2			○			7	1			1				
	女性と社会	1・2	2			○				1							
	沖縄の基地と戦跡 I	1・2	2			○			1								
	ウチナーグチ入門 (初級)	1・2	2			○			1								
	ウチナーグチ入門 (中級)	1・2	2			○			1								
	近代沖縄の社会と表現	1・2	2			○			1								
	琉球の文学	1・2	2			○					1						
	沖縄の美術・工芸	1・2	2			○			1								
	沖縄研究入門	1・2	2			○			1								

教育課程等の概要															
(保健学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (総合領域)	琉大特色科目	台風ー自然と風土	1・2		2		○								
		琉球の自然	1・2		2		○			5	1				
		琉球の自然保護	1・2		2		○			4	1				
		沖縄のサンゴ礁	1・2		2		○			6	2				
		琉球弧の自然誌	1・2		2		○			3					
		琉球の地理	1・2		2		○			3					
		異文化コミュニケーション	1・2		2		○			1					
		現代の国際関係	1・2		2		○			1	1				
		移民論	1・2		2		○					1			
		沖縄の政治と社会	1・2		2		○			1					
		三線と島唄	1・2		2		○		○	1					
		うちなーぐちあしび	1・2		2		○			1					
		亜熱帯ー西表の自然	1・2		2		○			1					
		沖縄の学力と教育	1・2		2		○				1				
	小計 (23科目)		—	0	46	0		—	40	8	3	1	0		
共通教育科目 (基幹領域)	情報関係科目	情報科学演習	1・2		2			○		15	15	2	6		
		小計 (1科目)		—	0	2	0		—	15	15	2	6	0	
	外国語科目	総合英語演習Ⅰ	1・2		2			○		4	6	2			
		総合英語演習Ⅱ	1・2		2			○		2	3	4			
		英語講読演習Ⅰ	1・2		1			○		5	3				
		英語講読演習Ⅱ	1・2		1			○		4	2				
		英語講読特演	1・2		2		○			3	2				
		実用英語特演	1・2		2		○			3	1				
		特別英語演習	1・2		2		○			1					
		基礎ドイツ語Ⅰ	1・2		2				○	2	5				
		基礎ドイツ語Ⅱ	1・2		2				○	2	6				
		基礎ドイツ語Ⅲ	1・2		2				○		1				
		基礎ドイツ語講読	1・2		2		○				1				
		応用ドイツ語演習	1・2		2		○				1				
		ドイツ語講読演習	1・2		2		○				1				
		ドイツ語特演	1・2		2		○			1					
		基礎フランス語Ⅰ	1・2		2				○		1	1			
		基礎フランス語Ⅱ	1・2		2				○		1	1			
		基礎フランス語Ⅲ	1・2		2				○			1			
		基礎フランス語講読	1・2		2		○					1			
		基礎フランス語会話	1・2		2		○					1			
		応用フランス語会話	1・2		2		○				1				
		フランスのことばと風物	1・2		2		○					1			
		基礎スペイン語Ⅰ	1・2		2				○			1			
		基礎スペイン語Ⅱ	1・2		2				○			1			
		基礎スペイン語Ⅲ	1・2		2				○			1			
		基礎スペイン語講読	1・2		2		○					1			
		スペインのことばと風物	1・2		2		○					1			
		基礎中国語Ⅰ	1・2		2				○		1	2			
		基礎中国語Ⅱ	1・2		2				○		1	2			
		基礎中国語Ⅲ	1・2		2				○			1			
		基礎中国語講読	1・2		2		○					1			
		応用中国語演習	1・2		2		○					1			
			小計 (61科目)		—	2	2	0		—	29	47	12	0	0
専門基礎科目	先修科目	化学Ⅱ	1・2		2		○			3					
		化学実験	1・2		1				○	2	7		3		
		生物学Ⅱ	1・2		2		○			3	1				
		物理学入門Ⅱ	1・2		2		○			1	1	1			
		小計 (4科目)		—	0	7	0		—	9	9	1	3	0	

教育課程等の概要

(保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修 専門基礎科目	形態学	2	2			○		○	1						
	生理学	2	2			○		○	1				1		
	生化学	2	2			○			1						
	微生物学	2	2			○		○		1			1		
	薬理学	2	2			○		○	1						
	栄養学	2	2			○			1						
	保健福祉政策論	1	2			○									
	疫学・統計学	2	2			○			1				1		
	国際保健学概論	1	1			○			1						
	環境保健学	1	2			○			1						
	症候病態論	2	2			○			1						
	卒業研究Ⅰ	3	1					○	9						
	小計(12科目)	-	22	0	0	-	-	-	9	1	0	3	0		
	検査 技術学 コース	形態学	2	2			○		○	1					
生理学		2	2			○		○	1						
生化学		2	2			○			1						
病理学		2	2			○		○	1						
微生物学		2	2			○		○		1			1		
薬理学		2	2			○		○	1						
栄養学		2	2			○			1						
保健福祉政策論		1	2			○									
疫学・統計学		2	2			○			1				1		
国際保健学概論		1	1			○			1						
保健技術関係法規		2	1			○				1					
保健情報科学		3	2			○		○	1				1		
小計(12科目)		-	22	0	0	-	-	-	6	1	0	3	0		
必修 専門科目		看護学概論	1	2			○	○		1					
	生活援助技術Ⅰ	2	3			○	○					1			
	生活援助技術Ⅱ	2	3			○	○		1						
	家族看護論	3	2			○				1					
	成人保健看護論	2	2			○			1						
	成人急性期看護	3	2			○	○			1					
	成人慢性期看護	3	2			○	○		1						
	老年看護援助論	2	2			○					1				
	老年看護方法	3	2			○	○				1				
	母性発達援助論	2	2			○					1				
	母性看護方法	3	2			○	○				1				
	小児保健看護論	3	2			○	○		1						
	小児看護方法	3	2			○		○	1						
	精神保健看護論	3	2			○			1						
	精神看護方法	3	2			○	○		1						
	地域看護論	2	2			○			1						
	地域看護方法	3	2			○	○					1			

教育課程等の概要														
(保健学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	白山	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修 専門科目	在宅ケア論	3	2			○	○				1			
	早期体験実習	1	1					○	3					
	生活援助技術実習Ⅰ	2	1					○			1			
	生活援助技術実習Ⅱ	2	2					○	1					
	成人早期看護実習	3	1					○	1					
	成人急性期看護実習	4	3					○		1				
	成人慢性期看護実習	4	3					○	1					
	成人統合実習	4	1					○	1					
	老年看護実習	4	2					○		1				
	地域老年看護実習	3	1					○		1				
	精神看護実習	4	2					○	1					
	母性看護実習	3	2					○			1			
	小児看護実習	4	2					○	1					
	地域看護実習Ⅰ	3	2					○			1			
	地域看護実習Ⅱ	4	3					○			1			
卒業研究Ⅱ	4	2					○	10						
小計(33科目)		—	66	0	0		—	10	2	4	0	0		
検査 技術 コース	早期体験実習	1	1					○	3					
	生化学実習	2	1					○	1					
	臨床化学Ⅰ	3	3			○		○	1					
	臨床化学Ⅱ	3	2			○		○	1					
	RⅠ検査技術学	4	2			○		○	1					
	分析化学	2	2			○		○	1					
	病理組織細胞学	3	3			○		○	1					
	臨床検査総論	3	2			○		○	1					
	臨床検査管理・機器総論	3	2			○		○	2	1				
	遺伝子診断技術学	4	2			○	○	○	7	1				
	臨床生理学Ⅰ	3	2			○		○	1					
	臨床生理学Ⅱ	3	3			○		○	1					
	医用電子工学	2	3			○	○	○	1					
	臨床微生物学	4	3			○		○		1		1		
	医動物学	3	1			○		○	1					
	免疫学	2	1			○		○	1					
	臨床免疫学	3	2			○		○	1					
	臨床血液学	3	2			○		○	1					
	病態生理学	2	2			○		○	1					
	臨床病理学総論	4	1			○		○	1					
	保健技術学実習Ⅰ	3	2					○	1					
	保健技術学実習Ⅱ	3	2					○	1					
	保健技術学実習Ⅲ	4	4					○	1					
技術卒業研究Ⅰ	3	4					○	5						
技術卒業研究Ⅱ	4	4					○	5						
小計(25科目)		—	56	0	0		—	5	1	0	1	0		

教育課程等の概要

(保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目	がん看護論	3		1		○			1						
	生命倫理学	1		1		○			1						
	感染看護学	4		1		○				1					
	保健情報科学	3		2		○		○	1				1		
	カウンセリング論	3		2		○									
	小児病学	3		1		○			1						
	看護管理学	4		1		○					1				
	国際母子保健論	3		1		○			1						
	国際長寿健康科学	4		1		○									
	周産期学	3		2		○				1					
	病理学	2		2		○		○	1						
	国際島嶼地域看護論	3		2		○			1						
	毒性学	3		1		○			1						
	臨床心理学	2		1		○									
	臨床心理学演習	3		2		○	○								
	思春期学	4		1		○			1						
	食品衛生学	3		2		○			1						
	看護英語文献講読	4		1		○			1				1		
	免疫学	2		1		○			1						
	精神医学ソーシャルワーク	2		2		○			1						
健康教育学	3		2		○	○		1							
救急法	3		2		○			1							
小計 (22科目)		—	0	32	0	—	—	8	2	1	3	0			
検査技術学コース	病理特殊検査法	4		2		○			1						
	医動物学実習	3		1				○	1						
	画像診断学	4		2		○			1						
	保健技術英語文献講読	4		2		○			1						
	毒性学	3		1		○			1						
	生物活性物質論	3		1		○			1						
	環境微生物学	3		2		○				1		1			
	症候病態論	2		2		○			1						
	総合検査学	4		2		○			1						
	遺伝学	3		1		○			1						
	環境保健学	1		2		○			1						
	生命倫理学	1		1		○			1						
	国際母子保健論	3		1		○			1						
	国際長寿健康科学	4		1		○									
	国際島嶼地域看護論	3		2		○			1						
	健康食品学	4		1		○			1						
	食品衛生学	3		2		○			1						
小計 (17科目)		—	0	26	0	—	—	8	1	0	1	0			
合計 (104科目)		—	148	52	0	—	—	14	4	4	4	0			
学位又は称号	学士 (保健学)		学位又は学科の分野				保健学								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本学科に4年以上在学し、126単位以上を修得すること。 看護学コース：共通教育科目28単位、専門基礎科目22単位、専門科目66単位、選択科目10単位 技術学コース：共通教育科目28単位、専門基礎科目22単位、先修科目5単位、専門科目56単位、選択科目15単位								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		16週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(保健学研究科博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	保健学特別講義	<p>保健学特別講義は、本研究科の2領域のコアとなる研究分野の教員がオムニバス形式によって各自の研究分野における研究内容と成果について概説する。受講生は、この講義によって保健学研究の現状を幅広くかつ深く認識するとともに、保健学研究の在り方について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (2 外間登美子/4回) 沖縄県のこれまでの母子保健統計と今後の母子保健分野に関する課題について、特に島嶼県で直面している問題を紹介する。また、アジア・太平洋地域の母子保健の現状について教授する。</p> <p>(3 高倉 実/4回) 疫学および健康教育学に関する文献を検討することによって、量的研究を推進する上で必要不可欠となる調査研究方法を教授し、集団の健康増進・開発のための具体的方法などについて考察する。</p> <p>(8 砂川 洋子/2回) わが国における第3次対がん10カ年総合戦略(がんの罹患率と死亡率の激減を目指して)の政策を踏まえて、がん予防の戦略目標、がん死亡要因などの観点から学術的考察を行い、沖縄のがん予防政策や取り組み、健康開発のための具体的方法などについて教授する。</p> <p>(9 栗田久多佳/2回) 保健医療技術の応用としての検診システムの構築やその運用について、沖縄県における小児医療・保健における実例をあげて概説し、保健医療システムのあり方を考察する。</p> <p>(12 宇座美代子/3回) 沖縄県における住民の保健行動に焦点を当てたマラリア予防対策の歴史、日本本土とは異なる文化、生活習慣(ユタ、ユイマール、食生活等)と健康長寿との関連について教授し、島嶼地域や開発途上国における調査研究を進めるための具体的方法などを考察する。</p>	オムニバス方式
	人間健康開発学領域科目	人間健康開発学特論	<p>人間健康開発学領域で博士論文作成を意図する入学者が、これまでに培ってきた沖縄の健康長寿と社会文化的環境や亜熱帯性自然環境との関わりについて理解を深めるとともに、健康長寿の維持増進・開発の意義および健康資源の解明・開発の必要性等について幅広い知識と視野を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (4 與古田孝夫/4回) 高齢者の健康長寿要因について、長寿県である沖縄で得られたこれまでの研究知見を概説するとともに、高齢者のメンタルヘルスと社会文化的健康資源との関連性について講義する。</p> <p>(5 名嘉 幸一/3回) 沖縄における自殺、PTSD、虐待、シャーマニズムなどの現象を検討することによって、行動科学的視点および比較文化的視点から沖縄の健康長寿について講義する。</p> <p>(6 仲村美津枝/2回) 沖縄の歴史や社会文化的環境から生み出されてきた母子関係・家族形態の特徴と、母性意識や子どもの生育環境との関連および出生率や合計特殊出生率との関連について概説し、沖縄県の母子の特徴について考察する。</p> <p>(7 赤嶺 依子/2回) 健康長寿達成への一戦略として、中高年者の「性の健康」を取り上げ、これまでの研究の現状や成果を概説するとともに、性の側面から健康長寿の維持増進や開発に資する方策を考察する。</p> <p>(10 安仁屋洋子/4回) 生活習慣病や加齢に関連する酸化ストレスと病態との関連、酸化ストレスをコントロールする抗酸化物質について講義し、亜熱帯性バイオ資源・抗酸化物質による生活習慣病予防、がん予防の可能性を考察する。</p>



人間健康開発学領域科目 専門科目	健康増進開発学特論	健康増進施策におけるヘルスプロモーションの意義及び役割、ヘルスプロモーションのモデル、具体的な展開方法などについて包括的に教授するとともに、特に、青少年におけるヘルスリスク行動に関する行動疫学及び学校におけるヘルスプロモーションに関する研究手法や健康教育による介入研究の企画、実施、評価のあり方と実際に研究指導する。	
	健康長寿看護学特論	高齢者のQOL (Quality of Life: 生活や生命の質) を基盤とした健康長寿 (healthy aging) について、環境因子や食行動を含む生活習慣因子、心理社会的因子など、学際的な観点から分析力を深め、健康長寿確立に向けた看護学的アプローチの方策を探究する能力を育成する。また、長寿地域沖縄の健康長寿者のメンタリティ (精神性) や伝統的ライフスタイル、地域固有の社会支援ネットワークの分析・評価から、地域を基盤とした健康長寿の促進因子の研究手法について看護学的視点から考究する。	
	人間行動開発学特論	人の心と行動にかかわるさまざまな要因を分析評価する手法を身につけ、心身の健康から病理的問題の解析まで広くテーマを扱えるように指導する。その上で青少年の不適応から統合失調症、さらには現象としての不登校、自殺、うつ、DV、シャーマニズム等の問題まで広く俎上に乗せ研究ができるよう、この分野における研究のすすめ方、手順、データの解析、評価等について研究指導する。	
	母子支援看護学特論	母子看護学、小児看護学の既存の理論を踏まえ、母、子その家族の持つ看護の課題を解決するための看護実践方法、理論、研究方法を探究し開発する。	
	高齢期支援看護学特論	慢性の健康問題を持つ中高年期から高齢期にある人々の看護支援及び課題について理解を深めさせるとともに、看護実践能力や実践的研究方法を創造的に探究する能力の向上を図る。併せて老年看護学に必要な理論や看護方法の開発及び応用方法を修得することを目的とする演習形式の授業である。	
	緩和看護学特論	がん看護・緩和ケアにおける理論の生成及び理論やモデルに基づく看護支援方法の開発、応用について研究指導する。具体的には、成壮年期にあるがん患者・家族のQOL向上を目指した看護支援方法の開発やセルフケア教育プログラム開発などの看護学的視点からのエビデンス創出についての実際を研究指導する。	

専門科目 人間健康開発学領域科目	生理機能解析学特論	腎疾患やカルシウム代謝異常症といった疾病の病態に関する知見や診断についての検査法、また疾病に伴う細胞内シグナル伝達の変化といった課題に関する論文を講読し、疾病の解析や検査法についての理解を深める授業を目指す。病態を意識しながら検査法の意義を理解し、病態解析法や検査法の開発を考察する。受講者は指定された研究書や論文を熟読しておかなければならない。	
	生体代謝解析学特論	生体における栄養素の働き、健康・病態時の代謝について理解を深め、生化学、分子生物学的な研究方法を学ぶ。	
	生体機能解析学特論	薬物の薬効・毒性について理解を深め、特に薬効の個体差につながる薬物代謝酵素系について薬理遺伝学的側面から論述する。また、亜熱帯生物資源の機能性について抗酸化作用、肝機能及び薬物代謝酵素系への作用の点から理解させ、研究ができるよう指導する。	
	特別研究Ⅰ	1年次の博士論文作成に向けた演習形式の授業及び実習である。指導教員あるいは同分野の博士後期課程の学生を交えて行う。博士論文の構想のために、先行研究の把握、関連資料の状況、必要な実験法などについて指導助言し、研究計画を決定し、博士論文の構想、必要な実験などについて研究計画書作成をする。受講者は、毎回、先行研究や関連資料の調査結果や研究計画書を報告する。実習では、研究計画に基づき、実験やフィールドワークを遂行する。受講者は毎回、実験方法や結果について報告する。	
	特別研究Ⅱ	2年次の博士論文作成に向けた演習形式の授業及び実習である。指導教員あるいは同分野の博士後期課程の学生を交えて行う。実験やフィールドワークで得られた結果及び関連する先行研究や諸資料の検討結果について受講者に報告を求め、指導助言する。受講者は、毎回、先行研究や関連資料の調査結果や実験結果の検討結果を報告する。さらに博士論文の構成やその根拠となる諸資料・理論について指導助言する。それをもとに受講者は、最終段階の博士論文作成の構築を行う。実習では、論文構成のために必要な実験、フィールドワークを遂行する。受講者は毎回、実験方法や結果について報告する。	

国際島嶼保健学領域科目 専門科目	国際島嶼保健学特論	<p>国際島嶼保健学領域で博士論文作成を意図する入学者が、アジア・太平洋地域に近く、日本唯一の亜熱帯環境下にある島嶼の沖縄県での他県とは異なる特有の保健医療（疾病構造及びその背景など）の歴史並びに現状を学ぶと共に、発展途上国が抱えている保健医療問題を理解し、それらの問題の解決に必要な幅広い知識と国際性豊かな視野を身につける。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（11 當間 孝子/4回） 沖縄県で過去に流行していた蚊媒介性疾病マラリアの流行の様子や、その当時の媒介蚊の生息状況、防除方法、防圧の成功の秘訣について講義を行うとともに、琉球列島の媒介蚊の現在の生息状況についてもこれまでの調査結果を紹介する。また、疾病が流行している東南アジアや太平洋地域の気候や住民の生活の状況、媒介蚊の生態、防除法、問題点についても紹介する。</p> <p>（13 垣花 シゲ/4回） 島嶼地域や発展途上国における新興・再興感染症、国際感染症、薬剤耐性菌について感染看護学的見地から解説する。また、発展途上国の基礎看護学教育における感染看護学の特性について感染看護実践の視点から講義する。</p> <p>（14 栗山 一孝/4回） 島嶼地域や開発途上国におけるHIVやHTLV-I感染と低栄養状態などに併発する血液・免疫異常について論文講読を通して理解を深め、国際島嶼保健学の視点からこれら地域における血液・免疫異常の調査・研究を行う上での基本的情報を蓄積させる。</p> <p>（16 烏田 勝政/3回） アジア、アフリカの熱帯、亜熱帯地域に多い疾病、特に感染症について沖縄県との類似点や相違点について病理学的見地から解説する。さらに国際交流、海外旅行等により増加傾向にある輸入感染症についても例を挙げて講義する。</p>	オムニバス方式
	国際環境保健学特論	<p>世界の熱帯地域で流行しているフィラリア、マラリア、デング熱、西ナイル熱、日本脳炎などの蚊媒介性感染症について、環境系における病原体・宿主・媒介蚊の生態、相互関係、流行の疫学、現在実施しているコントロールプログラムについて学ぶ。</p>	
	国際小児保健学特論	<p>アジア・太平洋地域における小児保健統計を基に小児保健の現状を学ぶ。小児の栄養と感染症の問題を中心に、小児の主な健康問題とその予防対策について講義し、栄養状態の評価法、下痢症への対応や予防接種等について理解できるように指導する。</p>	
	島嶼地域看護学特論	<p>沖縄の伝統文化に根ざした健康長寿の要因や琉球列島における住民参加型のマラリア防圧の歴史及びその要因について論述し、島嶼地域及び発展途上国におけるその地域に特有な看護援助や地域ケアシステムに関連する研究課題についてアプローチする方法を構築する手がかりを得ることを目指す。</p>	

専門科目 国際島嶼保健学領域科目	感染看護学特論	新興・再興感染症，国際感染症，薬剤耐性菌の様相を把握し，看護実践における感染防止の原理を究明し，看護活動へ応用展開する方法，特に，発展途上国における感染看護展開方法について研究指導する。	
	血液免疫解析学特論	ヒト造血免疫システムにおける構成細胞群の産生と増殖機構とそれら細胞群の作用機序について理解し，そのうえで主な造血免疫疾患の病因・病態，さらに診断と治療についても理解を深めるために文献講読を主体に授業を進める。受講生が取り組む研究課題について，アプローチする方法を構築するための発想や手掛かりが得られることを目指す。	
	形態病態解析学特論	生体の正常及び病的状態について細胞，臓器及び遺伝子レベルで理解させ，形態学的研究方法，特に電子顕微鏡や免疫染色等を学び研究に応用できるように指導する。	
	特別研究Ⅰ	1年次の博士論文作成に向けた演習形式の授業及び実習である。指導教員あるいは同分野の博士後期課程の学生を交えて行う。博士論文の構想のために，先行研究の把握，関連資料の状況，必要な実験法などについて指導助言し，研究計画を決定し，博士論文の構想，必要な実験などについて研究計画書作成をする。受講者は，毎回，先行研究や関連資料の調査結果や研究計画書を報告する。実習では，研究計画に基づき，実験やフィールドワークを遂行する。受講者は毎回，実験方法や結果について報告する。	
	特別研究Ⅱ	2年次の博士論文作成に向けた演習形式の授業及び実習である。指導教員あるいは同分野の博士後期課程の学生を交えて行う。実験やフィールドワークで得られた結果及び関連する先行研究や諸資料の検討結果について受講者に報告を求め，指導助言する。受講者は，毎回，先行研究や関連資料の調査結果や実験結果の検討結果を報告する。さらに博士論文の構成やその根拠となる諸資料・理論について指導助言する。それをもとに受講者は，最終段階の博士論文作成の構築を行う。実習では，論文構成のために必要な実験，フィールドワークを遂行する。受講者は毎回，実験方法や結果について報告する。	

# 大学院等の設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を 記載した書類

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1) 教育研究上の理念、目的

#### ① 基本理念

「心身ともに豊かな健康・長寿のパラダイム構築」を理念に、創造性、国際性豊かな人材の養成、沖縄の豊かな島嶼・海洋性、亜熱帯性自然環境及び社会文化的環境を基盤とする特色ある保健学的研究、最先端の保健医療技術の開発、国際的学术交流（特にアジア・太平洋諸国など）を目指す。同時に、社会人のリカレント教育の場としても十分機能できる高度専門性の高い 21 世紀型保健医療フィールドにおけるモデルとなるような博士課程とする。

#### ② 目的

21 世紀日本の超高齢社会における最重要課題は健康・長寿である。沖縄県は世界でも長寿地域として注目されているが、近年は健康長寿の存続が危惧されている。また、熱帯・亜熱帯地域における国々では感染症さらには生活習慣病が大きな疾病負担となっている。これらの健康増進に関連した熱帯・亜熱帯地域に特有な健康問題解決を目的とする諸科学を統合した総合科学としての保健学的アプローチの研究・実践の場として琉球大学は最適の場所に位置している。

保健学研究科博士後期課程では、このような研究・実践の場として最適な条件を活かした教育研究を行う。人間健康開発学領域では沖縄の社会文化的環境及び亜熱帯性自然環境を基盤として、健康長寿の維持増進及び再生に資する方策の開発や健康資源の解明に関する研究を推進できる人材を養成する。国際島嶼保健学領域では、アジア・太平洋諸国等との国際学术交流を図り、アジア・太平洋地域における島嶼保健の課題と対策、特に感染症予防対策についても総合的に研究できる人材を育成する。

#### ③ 設置の背景

本学では昭和 61 年（1986 年）に保健学研究科修士課程が設置されて以来、多くの学生を受け入れ、これまで沖縄の地理的・気候的自然環境及び健康長寿地域を基盤とした保健学研究を推進してきた。近年、少子高齢社会・高学歴社会の到来、経済発展がもたらすグローバル化・交流の増大、地球温暖化を含めた地球環境の悪化など、社会・経済・環境の急激な変化や生命科学の発展、医療先端技術の急速な進歩等により、保健・医療を取り巻く環境は大きく様変わりした。これらの環境の変化は一方で生活習慣病、新興・再興感染症、ストレスの増加、自殺者の急増、幼児や高齢者虐待、サプリメントに頼る健康不安等の様々な健康・保健に係る問題を引き起こしている。

また、沖縄は世界的に健康長寿の島として知られているが、このような社会情勢の変化は沖縄でも例外ではなく、急激な社会環境の変化、ライフスタイルの変化等により現在、

健康長寿が危惧されている。沖縄における健康・長寿に関する研究は世界の中の長寿研究の拠点として位置づけられ、広く総合的・学際的研究が必要とされる。

## (2) 大学院設置の必要性

- ① 保健学研究科（修士課程）は、設置以来約 20 年間、保健医療分野に多くの専門職業人を送り出すことによって社会に貢献してきた。しかし、未曾有の少子・高齢社会に踏み出しているわが国において保健医療専門職業人の需要はますます拡大するとともに高度化・多様化していくと考えられる。このような状況に対応するために、保健医療分野や教育・研究機関などにおいて単に高度専門職業人としてだけでなく多種多様な課題に対応し、問題を解決していくことができる幅広く柔軟な高度専門性と教育研究を指導できる人材の育成が必要である。博士課程の設置によって課題探求型の研究を通し、また提供される多種多様な講義・演習を受講することによってより高度な専門性と幅広い柔軟な思考を身に付けた人材を育成することで社会の要請に応えたい。今回、本研究科で独自に行ったアンケート調査の結果（資料 1 参照）に見られるように、県内外関連分野から博士の学位取得者を採用したいとの意向が寄せられている。
- ② 保健学研究科（修士課程）は大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を実施し、保健医療に従事している社会人の大学院におけるリカレント教育として広く社会人を受け入れてきた。現在入学者に占める社会人は 5 割を超えており、社会のニーズは大きい。こうした社会人として保健学研究科修士課程を修了した者の中には、高度かつ多様化している保健医療分野において、さらに高度専門職業人として、あるいは教育・研究者として従事することを希望する者が多い。これらの社会的ニーズに応えるためにも博士課程の設置が必要である。
- ③ これまで保健学研究科（修士課程）では、東南アジア、アフリカ、中南米、中国、アメリカ、カナダ、モンゴル、ラオスなどから多くの外国人留学生を受け入れてきた。本学への留学生は沖縄の亜熱帯資源、健康資源、亜熱帯島嶼保健医療など沖縄の特異性に興味を持ち、これらを研究課題として取り組んできた。しかし、2 年間の修士課程ではより深化した研究成果を得ることは容易ではなく、また留学生の多くが博士の学位取得を目指しているため本研究科修了とともに本学及び他大学の博士課程に進学していた。博士課程の設置は、このような修士課程修了の留学生に対応するとともに博士課程から入学を希望する留学生のニーズにも応えることになる。本研究科に博士前期課程の設置が急がれる。
- ④ 今後、保健医療分野における研究体制は単一施設や国内多施設共同研究の枠を超えて国際的ネットワーク化やコンソーシアムが必須になってくる。したがって国外の教育・研究機関との研究・交流を行う際、博士課程が設置されることにより大学間交流協定の締結が円滑に行われ、また、博士課程教育カリキュラムにおける単位互換を可能とした人的交流を図るなど保健学研究を国際共同研究として推進していくことが可能となる。（資料 2）

## (3) 期待される成果と社会的意義

- ① 看護学、臨床検査学等分野の高度専門職業人・指導者を沖縄の地で養成することができる。
- ② 保健医療分野の高度な教育研究者を養成する。
- ③ 博士課程設置によって亜熱帯・島嶼地域の保健医療・生物資源開発研究の日本における拠

点となり得る。

- ④ 沖縄の健康・長寿に関する学際的な研究の成果を広く社会に還元し、健康・長寿に関する戦略的な拠点を形成することが可能になる。
- ⑤ 沖縄の多様な生物資源の有用性を明らかにし、健康バイオ資源として薬品および食品の開発・応用に活かすことが出来る。
- ⑥ 南に開かれた大学院としてアジア太平洋地域の国々と研究交流連携を緊密にし、研究活動をさらに拡大深化させることができる。

#### (4) 設置の緊急な必要性

博士後期課程保健学専攻の設置を急ぐのは、主として、①時代の変化への対応、②人材育成と大学の役割、③国際化への対応、④教育研究の戦略的展開、の4点にある。

##### ① 時代の変化への対応

2006年には日本の人口はピークを迎え、それ以後は減少の傾向に入るとされる。人口減少のなかで、18歳人口あるいは22歳人口を主として大学入学者や大学院入学者として想定していた現状から脱して、さらに有職者や社会人にも研究の機会を積極的に提供すべきだと考える。このような時代の変化に対応して行くうえでも、学部卒業者や大学院修士課程修了者へのさらなる教育と研究機会の提供の場として、いかに魅力的な教育課程を提供できるかが厳しく問われることになる。本専攻は島嶼・亜熱帯地域特有の健康問題や感染症対策における教育・研究の分野で活躍できる国際性豊かな人材を養成し、時代の変化に対応していく。

##### ② 人材育成と大学の役割

日本の大学は国際的競争力と特色を如何にして発揮するかが問われている。本研究科ではこれまでに実施してきた東南アジアに近い地理的気候的特性を活かした熱帯・亜熱帯地域における感染症の媒介蚊の研究、感染看護の研究や沖縄特有の亜熱帯生物資源・食材の機能性の研究等を一層推進するために博士後期課程の設置が急務である。

国立大学が法人化され、日本の大学は戦後最大の変革の渦中にある。世界は急速に相互関連性を強め、国際社会の中における日本の役割と責任も大きくなっている。このような内外の変化に大学も適切に対応することが求められている。急速に変化しつつある内外の要請に対応できる高度な専門的能力と適切な判断力を備えた人材の養成は、今社会が大学に求めている緊急の課題である。保健学研究科に博士後期課程を設置することは、大学教育と研究に従事できる人材の養成、高度専門職業人の養成、有職者の再教育という、社会が求める人材養成に応えるものである。

##### ③ 国際化への対応

保健学研究科修士課程では、これまで東南アジアに近い地理的気候的特性を活かした熱帯・亜熱帯地域における感染症の媒介蚊の研究、感染看護の研究や沖縄特有の亜熱帯生物資源・食材の機能性の研究等を行ってきた。平成2年度にはアジア・太平洋地域公衆衛生学校連合体(APACPH)に加入し、講義の相互提供や学会参加などを行い、教育研究の連携を促進してきた。博士課程の設置により、今後さらなる教育研究の連携・推進が期待される。

また、これらの成果を日本国内をはじめ、周辺のアジア諸国さらに世界に還元していくことは、地域特性を生かして地域に貢献し、国際交流の推進を通して特色ある大学作りを目指す本学の理念にかなうものでもある。

#### ④ 教育研究の戦略的展開

全国的には“健康日本 21”の見直しが迫られており、沖縄県でも“健康おきなわ 2010”の緊急の見直しが行われている。これらの健康・保健を取り巻く情勢に対処し得る高度専門職業人・指導者の養成が緊急な課題である。これらの教育研究スタッフの供給が緊急に要望されている。

#### (5) 人材養成

##### (基本方針)

- 沖縄の歴史、環境、文化（亜熱帯性地域、島嶼）を基盤とする保健学的研究を行い、保健学領域における高度の教育研究能力を有する指導的人材を養成する。
- 南に開かれた保健学研究科としてアジア・太平洋地域の国々との学術交流を図り、創造性、国際性豊かな人材を養成する。

##### (修了者の人材イメージ) (資料3)

###### ① 研究者・教育者

保健学をテーマとする研究者として自立し、特に、健康・長寿の維持・増進およびアジア・太平洋地域の健康問題解決に関する保健学研究の学術基盤の充実強化に寄与できる人材で、国内外の大学・研究機関等で研究・教育者として活躍できる専門家や、沖縄県内における大学・研究機関の研究・教育者の後継者として活躍できる人材を養成する。

###### ② 外国人研究者・教育者

アジア・太平洋地域との国際学術交流の動向に連動して、外国人留学生や研究者を積極的に受け入れ、本学がこれらの地域の国際島嶼保健に関する研究に占める拠点的作用の充実強化を図り、アジア・太平洋地域をはじめ、世界各地で教育研究の進展に貢献できる人材を養成する。

###### ③ 研究能力を備えた高度専門職業人

21世紀の超高齢化社会のニーズに対応した学際性、総合性、地域性を身につけ、国内外の保健医療機関のスタッフとして活躍し、健康・長寿の維持・増進およびアジア・太平洋地域における健康問題の解決に向けて地域貢献・国際貢献できる高度な専門的な知識を備えた保健医療専門家を養成する。

##### (修了後の進路及び人材需給見通し)

- ① 沖縄県内・日本国内の大学の教員および専門学校教員、沖縄県内・日本国内の保健医療機関の看護部および検査部の指導者。保健医療福祉行政機関のリーダーや専門職員。医薬・健康食品関連企業の研究開発部の研究員。

保健医療機関や関連企業の指導者や研究員の大学院修了者の割合は確実に増える傾向にあり、また、本研究科で独自に行ったアンケート調査の結果（資料1参照）に見られるように、県内外関連分野から博士の学位取得者を採用したいとの意向が寄せられたことから、今後、これらの分野における博士課程修了者の採用がさらに進む可能性が十分見込まれる。

- ② WHO、JICAなどの国際保健関連機関の研究員。アジア・太平洋諸国の保健専門家、島嶼を有する地域の保健福祉行政機関・研究機関の専門職員。

特に外国人留学生の場合、本国に帰って就職することが多いと考えられ、本研究科で



沖縄の亜熱帯資源、健康資源、亜熱帯島嶼保健医療などについて研究課題として取り組んできたものに関しては、本国をはじめとする諸外国での需要も多いと考えられる。

## 2 専攻の名称及び学位の名称

### (1) 専攻の名称

保健学研究科博士後期課程 保健学専攻

Graduate School of Health Sciences, Health Sciences Course

### (2) 当該名称とする理由

本専攻は、基本理念である「心身ともに豊かな健康・長寿のパラダイム構築」を目指して、看護学や臨床検査学にとどまらない保健学研究を推進するために、現在の修士課程（保健管理学、保健医療学、保健技術学の三分野）を混合配置して、人間健康開発学領域と国際島嶼保健学領域に統合した専攻である。（資料4）

人間健康開発学領域では沖縄の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤として、健康長寿の維持増進および再生・開発に資する方策の研究や健康資源の解明に関する保健学的研究を推進できる人材を養成し、国際島嶼保健学領域ではアジア・太平洋諸国等との国際学術交流を図り、これらの地域における島嶼保健の課題と対策に関する研究を戦略的に推進できる国際性豊かな人材を養成するためのカリキュラムを用意する。

以上のことから、本専攻の名称は「保健学専攻」、授与する学位は「保健学」とする。

### (3) 学位の名称

博士（保健学） Ph.D. Health Sciences

## 3 教育課程の編成の考え方及び特色

### (1) 教育課程編成の考え方

保健学研究科博士課程ではヒューマンヘルスサイエンスをベースにした南に開かれた大学院として、沖縄の豊かな島嶼、海洋性、亜熱帯自然環境および社会環境を基盤とする保健学研究を行い、看護学、臨床検査学領域にとどまらない保健学に関する教育・研究者、指導者の養成を目標とする。また、アジア・太平洋諸国との国際学術交流を図り、国際性豊かな人材養成を目指すと共にアジア・太平洋地域からの外国人留学生を積極的に受入れ、これらの地域における保健医療分野の教育・研究に貢献できる人材を養成する。

そのために、人間健康開発学領域と国際島嶼保健学領域を置く。（資料4、5）

学生は、3年間の履修によって博士の学位が取得できるよう、段階的、計画的な履修指導、研究指導を受け、特別研究(8単位)及び保健学特別講義(2単位)の共通必修科目を中心に、領域別必修科目（「人間健康開発学特論（2単位）」あるいは「国際島嶼保健学特論（2単位）」のいずれかの科目）、さらに当該指導教員提供科目 2単位、計14単位以上を履修する。（資料6）

「保健学特別講義」では本研究科の2領域のコアとなる研究分野の教員がオムニバス形式によって各自が行っている研究内容と成果について概説し、保健学研究の現状を幅広くかつ深く認識するとともに、保健学研究の在り方について学ぶ。

「人間健康開発学特論」では沖縄の歴史、文化、自然環境を基盤とした健康開発学を、「国際島嶼保健学特論」では国際島嶼保健学に関する健康問題に関連した理論や研究方法を学ぶ。

## (2) 教育の特色

### ① 学融合に基づいた領域の編成

既存の看護学、臨床検査学の枠にとらわれずに健康増進や健康長寿の構築を目的とした人間健康開発学及び熱帯、島嶼地域の保健問題への対応を目的とした国際島嶼保健学という新しいアプローチを基盤とした教育を行う。

### ② 特別研究を核とする体系的カリキュラム

「特別研究」は指導教員が実施する科目で、研究内容が該当する個々のテーマに沿ってそれぞれの課題を深め、学期毎、年度毎に段階的に指導できるよう編成されている。この特別研究の課題は最終的にしかるべき専門学会誌に投稿し、博士論文とする。

### ③ 3年間での学位取得

3年間の履修によって博士の学位が取得できるように、年次毎に計画的な教育指導体制をとる。

### ④ 社会人へ配慮

学部及び修士課程でのこれまでの社会人学生教育の実践と経験をもとに、講義の昼夜開講、土曜日開講など、社会人学生に配慮した弾力的な時間割編成を行い、社会人に対する履修上の配慮を行う。

## 4 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織編成の考え方

本専攻は、東南アジアに近い地理的気候的特性を活かし、熱帯・亜熱帯感染症の媒介蚊の研究、感染看護の研究、熱帯・島嶼地域の保健医療の研究や沖縄特有の亜熱帯生物資源・食材の機能性の研究等を最大限に生かして教育研究を行い、地域社会や国際社会で活躍できる高度な専門的能力、総合的判断能力を備えた有為な人材、広い視野と国際感覚を備えた専門職業人および大学教員を養成するため、適切な教員配置をする。(資料5)

配置される教員のうち、特別研究の担当者には当該分野に関する十分な研究業績を有する教員12名を配置して指導に当たる。12名の教員はすべて博士号の学位取得者である。

就任する教員は、全員本学の定年規定上問題はない。

なお、教員の氏名等(様式第3号(その2))の「年齢」欄において「63(高)」の教員が学年進行中に定年に達するが、引き続き非常勤講師として採用する予定である。このことについては、本学の非常勤講師に関する学内規定上認められており、問題はない。

## (2) 特色

本専攻教員組織は、保健学にあつてそれぞれの研究領域、研究分野の教育・研究にあたりながら、保健学研究に携わつてきた実績を持つ教員によって編成されている。各教員は、学際的なプロジェクト、科学研究費などによる研究を共同で行つてきた実績を有する。

本専攻の指導体制における総合的な視点からの科目運営と教育指導を円滑に行える教員組織である。

## 5 履修指導、研究指導の方法及び修了要件

### (1) 履修指導

1 年次前期は「研究計画」をもとに学生を交え、論文提出までの長期研究計画と年次研究計画を作成する。研究計画が順調に進行しているかを必修科目である「特別研究」において指導教員が毎学期ごとにチェックする。指導教員は年度末の研究経過報告、科目履修状況、研究計画の進捗状況などを勘案し、論文作成に向けた指導を行う。社会人学生、留学生にあつても上記の履修指導が順調に行えるよう配慮する。(資料4～6)

### (2) 研究指導

研究指導は総合的な観点から行うが、研究が高度で専門的なものであり、かつ将来、自立して専門的業務や研究を遂行できる資質を涵養するよう指導する。研究内容が該当する国内外の学術誌での評価に耐えられるよう、論文作成に向けて段階的な研究指導を学期ごと、年次ごとに行う。

社会人学生、留学生にあつても上記の研究指導が順調に行えるよう配慮する。

### (3) 修了要件

修了要件に必要な単位数は共通必修科目 10 単位 (保健学特別講義 2 単位, 特別研究 8 単位), 領域必修科目 2 単位, 当該指導教員提供科目 2 単位の計 14 単位以上とする。この要件を満たしたうえで、必要な研究指導を受けながら論文を作成し、かつ論文審査および最終試験に合格した者に博士 (保健学) の学位を授与する。

## 6 施設・設備等の整備計画

### (1) 教室等の施設・設備の整備計画について

教室等の施設・設備については、現在の医学部保健学科の施設で対応できる。博士後期課程専用の室として、1 室を確保する。(保健学科棟演習室 5 階 517 室 62 m<sup>2</sup>) (資料7)

特別研究は少人数教育になるので、指導教員の各研究室を有効利用する。

### (2) 機器の整備計画について

アジア・太平洋諸国との交流 (アジア・太平洋地域公衆衛生学校連合体 (APACPH) 活動を含め) の拡大に伴い、これらの地域で活動する国際的視野を持った保健医療専門職の養成が益々重要になってきている。

また、近年、健康を取り巻く環境が大きく変化するなか、健康の開発、より良いケアの確立、感染防御等の研究に関して科学的根拠に基づく立証研究が求められている。さらに、科学技術の発展により保健・医療の研究・教育分野においては、先端技術が日常的に用いられるようになり、高度で多機能機器の使用が普遍化されてきている。

このような時代の流れや社会のニーズに対応した健康・医療の高度専門家、研究・指導者を養成するため、国際的な相互講義、健康開発・看護に関連する先端技術を習得させるカリキュラムを構築する必要がある。このため、次のような設備機器を整備する。

①遠隔講義システム用機器（5, 281千円）

- ・遠隔講義システム一式

②健康・病態の科学的評価機器一式（35, 070千円）

- ・エンベディング・コンソール・システム
- ・顕微鏡・撮影装置一式
- ・呼吸代謝測定システム
- ・ジェネティックアナライザー
- ・バイオハザード対策用キャビネット（安全キャビネット）
- ・凍結ミクロトーム

③島嶼看護・在宅ケア実践教育教材機器一式（6, 650千円）

- ・人工呼吸器
- ・酸素濃縮器
- ・輸液ポンプ

### (3)図書館

附属図書館医学部分館（延べ面積 1,403 m<sup>2</sup> 座席数 160 席）は、平日は 8 時 30 分～ 22 時 00 分、土曜日・日曜日は 10 時 00 分～ 20 時 00 分の開館となっている。

図書（約 12 万冊）、学術雑誌（4300 種）、電子ジャーナル（約 2500）をはじめ各種視聴覚資料や標本等が収蔵されている。また、文献検索システムをはじめとした各種デジタルデータベースや電子ジャーナルも稼働しており、教育・研究活動を支えている。

### (4)大学院学生の研究室(自習室)等の考え方

入学定員が 3 人と少人数なので、学生自習室については指導教員の研究室や附属図書館医学部分館等、既存の保健学科の施設を有効利用することで対応可能である。（資料 7）

## 7 既設の修士課程との関係

(1) 昭和 43 年に保健学部が設置された。

(2) 昭和 47 年に保健学部保健学科に改編された。

- (3) 昭和 56 年に保健学部が医学部保健学科に改組された。
- (4) 平成 15 年に保健学科は 6 大講座（基礎看護学，成人・老年看護学，母子看護学，地域看護学，生体検査学，病態検査学）に再編成された。
- (5) 昭和 61 年に保健学研究科修士課程（保健学専攻）が設置された。
- (6) 博士後期課程の設置によって，現在の修士課程の 3 領域（保健管理学領域，保健医療学領域，保健技術学領域）は博士後期課程の 2 領域（人間健康開発学領域，国際島嶼保健学領域）の新しい教育体系へ再編し，現在の修士課程は博士前期課程となる。その教育内容の体系化，レベルアップを図る。（資料 8）

## 8 入学者選抜の概要

### (1) 入学者及び入学者選抜の時期

入学期は春期（4 月）とし，入学者選抜は入学期に先立って行う。

### (2) 出願資格

#### ① 一般選抜

次の各号に該当する者とする

- 1) 修士の学位を有する者
- 2) 外国において，修士の学位に相当する学位を授与された者
- 3) 文部科学大臣の指定した者
- 4) 大学院において，個人の入学資格審査により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められたもので，24 歳に達した者

※出願資格 4) により出願を希望する者については，出願前に個別の出願資格認定を行う。

○出願資格認定条件；原著 1 編以上（査読のある学術雑誌へ筆頭者として掲載されたもの）を有すること。

#### ② 社会人特別選抜

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で，大学卒業後又は学士の学位取得後 2 年以上の社会的経験を有する者とし，有職者に限らない。

#### ③ 外国人留学生特別選抜

日本国籍を有しない者で，一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者。

### (3) 入学者選抜方法

入学者選抜方法の概要は，次のとおりとする。

#### ① 一般選抜

保健・医療に関する知識及び論理的思考力と表現力を総合的に評価できる課題文を英語で出題する。なお，英語辞書（1 冊）の持ち込み（ただし，電子辞書類を除く）を認める。

## ② 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

保健・医療に関する知識及び論理的思考力と表現力を総合的に評価できる課題文を英語で出題する。なお、英語辞書（1冊）の持ち込み（ただし、電子辞書類を除く）を認める。

## (4) 選抜の基準

- ① 選抜に当たっては、本研究科の特徴、学生の希望、資質、これまでの実績を考慮して、3年で博士の学位を取得することができ、将来の飛躍が期待されうる学生を選抜する。
- ② 既に実社会で勤務する者又は勤務経験を有する者で、入学を希望する場合は、実社会における研究活動を考慮する。
- ③ 外国人留学生については、選抜に当たって語学が不利にならないように考慮するとともに、志願者の過去の学歴、業績等を十分に考慮して選抜を行う。

## (5) 学生確保の見通し（資料9）

本専攻に応募する学生として、以下のような広範囲の人材を考えることができる。これらのニーズを想定した教育研究体制を構築する。

- ① 既存に保健学研究科ないし他の研究科の修士課程修了者でより高度な教育研究を修得することを希望する者
- ② 国内外の大学において教育・研究に従事することを希望する者
- ③ 国際機関、医療機関や研究機関で活躍することを希望する者
- ④ すでに外国の大学院で修士課程を修了し、日本の大学の大学院への進学を希望している留学生

## (6) 留学生及び社会人の受け入れ

### ① 留学生の受け入れ

本学では、学術国際交流協定を締結しているチェンマイ大学、インドネシア大学、延辺大学、済州大学を中心に、すでに多くの学部学生、大学院生を受け入れてきている。本学に保健学研究科の博士課程が設置された場合、学生を送りたいと希望している大学も複数ある。交流協定を締結してはいないが、すでにインドネシアのハサヌディン大学からも博士課程設置の要望と教育研究の交流の申し出もあり（資料1）、留学生の需要は大きい。

### ② 社会人の受け入れ

社会人の場合、すでに保健学研究科（修士課程）を修了した者を中心に、病院、看護師養成学校、福祉保健所、研究機関から自己の能力を高めたいという希望者が少なくない。

## 9 大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第2条の2項又は第14条による教育方法を実施する場合

### (1) 修業年限

保健学研究科（博士課程）の標準修業年限は、3年とする。

## (2) 履修方法及び研究指導の方法

大学院設置基準第14条に定める教育方法の趣旨を積極的に活用し、職業を有する社会人学生の便宜を図るため、以下のような履修方法を採用する。

- ①通常の時間帯のほか、特例による授業時間帯を設け、修業年限の全期間にわたって、特例による授業時間帯を設定し、課程修了に必要な単位を修得できるようにする。
- ②社会人学生は、履修計画を指導教員の指導の下に作成する。

## (3) 授業の実施方法

上記特例による授業時間帯は、原則として夜間の2時間（1時限目：18時00分～19時30分、2時限目：19時40分～21時10分）と土曜日に設定する。

## (4) 学位（博士論文）の作成指導

論文の作成指導は1名の主指導教員と課題に関連した2名の副指導教員によって行う。

## (5) 学位論文の審査方法

所定の単位を修得（あるいは修得予定）した学生は、主指導教員を経て学位論文審査の申請を研究科長へ行うものとする。研究科長は論文内容の要旨等について、主指導教員の説明を受けたうえで受理すべきか否かを決定する。

論文の審査については、研究科委員会が指名する主査1名、副主査2名で構成する審査委員会で審査と最終試験を行い、審査委員会の報告に基づいて、研究科委員会が最終的に審査の可否を判定する。

## (6) 教員の負担の程度

特例による社会人入学者は少数であり、これらの者が履修する科目は限られたものとなるので、教員の負担増は極端なものとはならず十分対応できる。

## (7) 図書館・情報処理施設等の利用方法

### ①図書館の利用

附属図書館及び医学部分館は、平日は8時30分～22時00分、土曜日・日曜日は10時00分～20時00分の開館となっており、社会人学生の図書貸出・閲覧に支障はない。

### ②Webの利用

総合情報処理センターが管理するワークステーションが各学部配置されており、利用者は24時間、医学部の端末機やパソコンから学部のWebへアクセスし、ネットワークを通して研究に必要な情報を入手することができる。

## (8) 学生の厚生に対する配慮

### ①夜間の医療サービス・緊急時の対応

同一施設内の附属病院には救急部があり、夜間・緊急時の急患、事故等への体制が整備されている。

### ②食堂・売店等の利用

附属病院内の食堂・売店等が午後7時まで営業しており、学生の利用が可能である。また、医学部周辺には24時間対応のコンビニエンスストア、食堂、ファーストフード店があり、不便はない。

#### (9) 必要な職員の配置

大学院勤務時間の割振り等により、必要な職員を夜間も配置し支障のないよう措置する。

#### (10) 入学者選抜の概要

##### ①入学者及び入学者選抜の時期

入学時期は春期（4月）とするが、留学生については秋期（9月）入学も可とする。入学者選抜は入学時期に先立って行う。

##### ②出願資格

社会人特別選抜

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で、大学卒業後又は学士や修士の学位取得後2年以上の社会的経験を有する者とし、特に有職者に限らない。

##### ③入学者選抜方法

入学者選抜方法の概要は、次のとおりとする。

###### 1)書面審査

修士論文、その他の論文・学会発表等について行う。

###### 2)筆記試験

小論文

###### 3)口述試験

修士論文等の内容及び今後の研究計画について行う。

##### ④選抜の基準

1) 選抜に当たっては、本研究科の特徴、学生の希望、資質・能力、これまでの実績等を考慮して、3年間で博士の学位を取得することが見込まれ、さらにこの分野での将来の飛躍が期待される学生を選抜する。

2) すでに専門的分野で業務に従事する者又は勤務経験を有する者で入学を希望する場合は、その分野における研究活動及び活動実績等を考慮する。

#### (11) 必要とされる分野であること

社会人として保健医療分野における高度の専門的知識と実践的能力を身に付け、その成果を社会に還元したいという社会的要望に応えるためにも、14条特例による昼夜開講制を導入し、学習・研究機会を拡大し、提供する必要がある。

この制度を導入し、夜間・土曜日を利用することで、県内の保健医療機関や自治体の職員等で働きながら学び、自己の研究応用能力を高めようとする意欲を有する者に学ぶ機会を提供することができる。

#### (12) 大学院を専ら担当する専任教員を配置するなどの教員組織の整備状況

配置される教員のうち、特別研究の担当者には当該分野に関する十分な研究業績を有する



教員 12 名を配置して指導に当たる。12 名の教員はすべて博士号の学位取得者である。

## 10 自己点検・評価

### (1) 基本方針

琉球大学には、自己点検・評価規則に関する企画、実施及び調査研究を行い、教育研究等の改善・改革に資することを目的とした大学評価センターが置かれている。保健学研究科博士課程の自己点検・自己評価も、この評価システムに則り遂行される。すなわち、①医学部の自己評価委員会による評価、②大学評価センターによる助言・勧告を二つの柱とする。これらは大学評価センターの支援のもとに行われる。

### (2) 自己評価

- ① 「琉球大学自己点検・評価規則」に基づき、医学部に自己評価委員会が設置されている。自己評価委員会は、琉球大学保健学研究科博士課程の理念、目的に照らして、教育・研究活動、管理運営を点検し、改善・改革に向けた普段の努力を払い、教育研究の水準の向上を図ることとする。
- ② 評価項目は、理念と目的、その実現の方法、教育活動、研究活動、学生生活、国際交流、教員組織、社会貢献、施設・整備、管理運営が大項目となる。
- ③ 特に、教育分野に力点を置く。学生の授業評価、満足度調査、生活実態の把握は、学生の参加を得て立案し、その結果を公表する。教育分野評価に優れた知見を持つ教員を育成するため、教員の任期は比較的長期に定める。
- ④ 自己点検・自己評価は、課題を明らかにし、数値化できるものは数値化し、次回の自己点検・自己評価においてはその達成度を評価する。

### (3) 公表

医学部自己評価委員会による自己点検・自己評価、大学評価センターの助言・勧告は、報告書を作成するとともに公表する。

## 11 情報の提供

- (1) 教育研究活動等の状況に関する情報は、主に、琉球大学公式ホームページに内に保健学研究科のホームページを開設することによって提供される。このホームページでは、①すべての開講科目のシラバス、②担当教員のプロフィール、③入試情報、を提供する。
- (2) 自己点検・自己評価のための評価項目は報告書として取り纏め、刊行物として公開する。
- (3) 受験生に対して保健学研究科の研究室を開放し、体験する機会を設ける。

## 12 教員の資質の維持向上の方策

### (1) 基本方針

教員の資質の維持向上の方策は、①保健科学研究会、②学生による授業評価の利用、が柱となっている。現在、保健学研究科では、修士論文発表会を開き、研究の成果を論文集として発行している。

### (2) 保健科学研究会

保健科学研究会は、日常的継続的なFD活動のための学部・大学院までの一貫した活動であり、昭和61年に設置され、毎月1回の割合で開催し、学術誌に投稿している。

### (3) アジア・太平洋地域公衆衛生学校連合体(APACPH)

アジア・太平洋地域公衆衛生学校連合体(APACPH)に加盟して講義の相互提供や学会参加などを行い、その加盟校との教育研究の連携を積極的に促進している。

抜粋

### 国立大学法人琉球大学職員就業規則

(平成16年4月1日 制定)

(定年)

- 第25条 職員の定年は、満60歳とする。ただし、大学教員の定年は、満65歳とする。
- 2 定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。
  - 3 第1項の規定にかかわらず、大学教員の定年の特例について、特に必要があると認められる場合は、別に定める教員就業規程による。

### 国立大学法人琉球大学教員就業規程

(平成16年4月1日 制定)

(定年の特例)

- 第10条 規則第25条第3項に規定する大学教員の定年の特例については、教授会等及び教育研究評議会で必要と認められるときは、別に定めることができる。

### 国立大学法人琉球大学非常勤講師雇用に関する申合せ

(平成16年4月1日 制定)

(資格審査の省略)

- 2 次に掲げる者にあつては、資格審査を省略することができる。
  - (1) 本学で非常勤講師として雇用された経歴のある者
  - (2) 大学で専任講師以上の職にある者又はその職にあつた者

(講師の年齢)

- 3 非常勤講師の年齢は、発令日において、原則として満70歳未満とする。

# 資 料 目 次

博士後期課程の需要調査及び設置要請文	資料 1
学術研究・教育ネットワーク概念図	資料 2
修了後の主な進路のイメージ図	資料 3
保健学研究科博士後期課程領域別に見た研究内容	資料 4
保健学研究科博士後期課程研究分野と提供科目	資料 5
履修モデル	資料 6
自習室等の見取り図	資料 7
既設の修士課程との関係図	資料 8
受入学生のイメージ図	資料 9

## 博士後期課程への入学需要調査

琉球大学医学部保健学科の在籍生、卒業生及び研究機関等の施設長を対象に、博士後期課程（保健学専攻）についての需要調査を行った。その結果は次のとおりである。

## 1) 在籍生に対する博士課程進学に関する意識調査

琉球大学医学部保健学科学生1年次から4年次の在籍生244人を対象に、琉球大学保健学研究科に博士課程が設置された場合、進学を希望するかどうかについて平成17年7月に調査を行った。

調査の結果、228人から回答（回収率93.4%）があった（表1）。

そのうち、本学への博士課程進学希望者は54人で全体の23.7%である。学年別でみると、1年次19人（33.3%）、2年次19人（35.8%）、3年次11人（19.6%）、4年次5人（8.1%）であり、1・2年次が全体の69.1%が多かった（表2）。

(表1) 年次別回答数

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
在籍数	59	55	59	71	244
回答数	57	53	56	62	228
回収率	96.6	96.4	94.9	87.3	93.4

(表2) 博士課程への進学

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
本学進学希望	19(33.3%)	19(35.8%)	11(19.6%)	5(8.1%)	54(23.7%)
他の大学院に進学	3(5.3%)	1(1.9%)	7(12.5%)	7(11.3%)	18(7.9%)
進学希望なし	18(29.8%)	12(26.4%)	27(46.4%)	30(40.3%)	87(38.2%)
その他	15(26.3%)	18(34.0%)	11(19.6%)	16(25.8%)	60(26.3%)
未記入	2(3.5%)	3(5.7%)	0(0.0%)	4(6.5%)	9(3.9%)
合計	57	53	56	62	228

本研究科博士課程進学希望者54人で希望職種別にみた内訳は、臨床検査技師19人（35.2%）、看護師9人（16.7%）、助産師9人（16.7%）、養護教諭6人（11.1%）、保健師5人（9.2%）、その他4人（7.4%）、未記入2人（3.7%）であり、臨床検査技師の希望者が多かった。看護師、助産師、保健師及び養護教諭を合計した看護系は29人（53.7%）であった（表3）。

(表3) 希望職種別による博士課程への進学（職種別）

	看護師	保健師	助産師	養護教諭	臨床検査	その他	未記入	合計
進学希望者	9(16.7%)	5(9.2%)	9(16.7%)	6(11.1%)	19(35.2%)	4(7.4%)	2(3.7%)	54

## 2)保健学科卒業生に対する博士課程進学に関する意識調査

卒業生 2,090 人のうち住所が確認された 1,929 人に対し、進学状況及び博士課程入学希望に関する調査を郵送により平成 17 年 7 月に実施し、261 人(回答率 14.5 %)から回答があった(表 4)。

回答のあった卒業生 261 人のうち、修士課程修了者は 75 人 (28.7 %), 博士課程修了者は 14 人 (5.4 %) であった(表 5)。論文博士も含めた博士の学位取得者は 25 人 (9.6 %) で、今後、博士学位取得を予定している者は 37 人 (16.3 %) であった(表 6, 表 7)。

学位を取得していない 227 人に対し、本学研究科に博士課程が設置された場合、入学を希望するかどうか尋ねたところ、希望すると答えた者は 22 人であった(表 7)。

博士学位取得予定者 37 人の現在の職種は、大学の教員が 25 人で全体の 67.6 % であった(表 8)。

(表 4) 卒業生の進学状況(n=261)

	はい	いいえ	未記入
修士課程を修了しましたか	75(28.7%)	182(69.7%)	4(1.5%)
博士課程を修了しましたか	14(5.4%)	240(92.0%)	7(2.7%)
博士学位を取得しましたか(論博含む)	25(9.6%)	227(67.0%)	9(3.4%)

(表 5) 卒業後の進学者の状況 n=261

(1)修士課程修了者 75 人の大学別内訳

琉球大学	51
東京大学	3
カリフォルニア州立大学	1
メリーランド大学	1
筑波大学	1
北海道大学	1
千葉大学	1
東京都立大学	1
東北学院大学	1
徳島大学	1
日本福祉大学	1
北里大学	1
佐賀医科大学	1
淑徳大学	1
沖縄国際大学	1
記入なし	8
合計	75

(2)博士課程修了者 14 人の大学別内訳

琉球大学	2
東京大学	2
北海道大学	1
千葉大学	1
関西学院大学	1
北里大学	1
久留米大学	1
徳島大学	1
長崎大学	1
広島大学	1
記入なし	2
合計	14

(表6) 博士学位取得者の状況 (論博含む)

(1)博士学位取得者25人の大学別内訳

琉球大学	医学	9
杏林大学	医学	1
大阪医科大学	医学	1
久留米大学	医学	1
慶応義塾大学	医学	1
長崎大学	医学	1
広島大学	医学	1
東京大学	保健学	1
杏林大学	保健学	1
徳島大学	保健学	1
女子栄養大学	保健学	1
北海道大学	学術環境学	1
鹿児島大学	農学	1
北里大学	(不明)	1
記入なし		3
合 計		25

(2)博士学位取得者25人の現在の職種

大 学	教授	2
	助教授	8
	講師	3
	助手	2
	研究員	1(米国1)
研究所研究員		6(米国1)
臨床検査技師		1
看護師		1
行政職		1
合 計		25

(表7) 博士学位取得予定の状況

(1)学位を取得した25人を除いた227人についての博士学位取得予定

	はい	いいえ	未記入
博士学位の取得予定がありますか(n=227)	37(16.3%)	165(72.7%)	25(11.0%)

(2)保健学研究科博士課程への入学希望

入学希望の有無	はい	22	いいえ	205
---------	----	----	-----	-----

(表8) 博士学位取得予定者37人の現在の職種の状況

大 学	教授	3
	助教授	6
	講師	6
	助手	9
	非常勤講師	1
専門学校教員		1
博士課程在学中		3
研究所研究員		2
看護師		3
保健師		1
教護教諭		1
臨床心理士		1
合 計		37

○ 博士課程設置に関する要望（自由記述）

- ・ 博士課程設置実現に向けた取り組みに期待する。
- ・ 現在，他大学の博士課程在学中。もっと早く博士課程が設置されていたらと残念。
- ・ 博士課程の設置で保健学科はさらに発展する。
- ・ 博士課程をもっと早く設置して欲しかった。将来，看護や検査以外の保健学（リハビリを含めた）領域の人も研究できるようにして欲しい。



### 3) 県内の300床以上の総合病院、会社、福祉保健所、研究機関等の施設長への調査

博士課程修了者の就職先確保の見通しについては、県内の300床以上の総合病院看護部、看護系学校、福祉保健所、会社、研究機関、健診センター等の施設長宛に往復はがきにてアンケート調査を平成17年7月に実施した。県内45施設に郵送し33施設から回答があった。

アンケートの結果は次のとおり。

#### (1) 回収状況と回収率

回答があったのは33施設（回収率73.3%）で、病院14、会社9、福祉保健所4、看護師養成学校4、研究機関2であった。

#### (2) 学位所持者の就職状況

大学卒以上の学位を有する者の採用状況（複数回答可）は、学士課程卒業者を雇用している施設が26施設（78.8%）、修士課程修了者を雇用している施設が15（45.4%）、博士課程修了者を採用している施設は3（9.1%）であった。そのうち、博士課程修了者を採用している施設の内訳は研究機関1、会社2であった（表9）。

#### (3) 博士学位取得者採用の希望状況

博士の学位を有する人を採用したいかをみると、3施設（9.1%）は直ちに採用を希望し、11施設（33.3%）は将来的に採用を考えていると回答し、合計14施設が採用を希望していた。これは回答のあった33施設の約半数の42.4%にあたり、県内の病院、会社等の施設は博士課程の修了者の人材確保に積極的であることが伺えた（表10）。特に病院看護部において、博士の学位取得者を希望する率は14病院中8病院（57.1%）と高くなっていた。会社においては9施設中3施設が将来採用したいとしていた。

今回、調査対象を県内施設へ限定したのは、依然として県内学生の県内就職志向が強く、また当大学や大学院（修士課程）で学んだ県外学生も沖縄県での就職を希望することが多いからである。

保健学をベースにした広い視野での看護学、検査学等を実践・研究できる人材は、社会に貢献できると考えられるため、県外からの企業、研究施設、看護系大学、病院、保健所からの採用も多いことが充分予測される。

（表9）施設別・学位取得者別在職者数の状況

n=33

施設	学位 計	学士			修士				博士			
		0人	1~3人	4人~	0人	1人	2人	3人~	0人	1人	2人	3人
病院看護部	14	2	2	10	9	3	1	1	14	0	0	0
学校	4	0	0	4	0	4	0	0	4	0	0	0
会社	9	3	1	5	5	1	0	3	7	1	0	1
福祉保健所	4	2	0	2	4	0	0	0	4	0	0	0
研究機関	2	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	1
小計	33	7	3	23	18	8	1	6	30	1	0	2
計	33	7	26		18	15			30	3		

（表10）施設別の博士学位取得者採用希望状況

n=33

	計	すぐ採用	将来採用	未定	予定なし	未記入
病院看護部	14	3	5	3	1	2
学校	4	0	1	3	0	0
会社	9	0	3	5	1	0
福祉保健所	4	0	2	0	0	2
研究機関	2	0	0	2	0	0
計	33	3	11	13	2	4



DEPARTMENT OF NATIONAL EDUCATION  
HASANUDDIN UNIVERSITY  
FACULTY OF PUBLIC HEALTH

Jl. Perintis Kemerdekaan KM.10 Makassar 90245, Telp. +62-411-585658, Fax. +62-411-586013  
E-mail: [dekan\\_fkmuh@yahoo.com](mailto:dekan_fkmuh@yahoo.com), Website: [www.fkmunhas.com](http://www.fkmunhas.com)

Makassar, 13 September 2005

No.: 1774/J04.16/UM.13/2005

Professor Tomiko Hokama  
Dean, Graduate School of Health Science  
University of the Ryukyu

Dear Professor Hokamma,

**Reference for new Ph.D. course of Graduate School of Health Science**

Greeting from Makassar Sulawesi, Indonesia.

I am very pleased and honoured that I could support a Ph.D. course related to International Health Science and Nursing that you requesting to the Monbukagakusyou, Japanese Government.

I have known School of Health Science Faculty of Medicine, University of the Ryukyu for some 10 years since Professor Ichiro Miyagi visit in 1991 to Makassar, Hasanuddin University, Faculty of Public Health to study the Entomological and Parasitological studies. During his various visits for cooperative field studies in Sulawesi, we understand very much each other. In 1994, Dr. Ishak Hasanuddin, one of our staff, studied on the biology of vector mosquitoes in the master course of your Graduate School under the supervision of Prof. Miyagi for two years. After that, Dr. Ishak Hasanuddin wants to study continuously in Ph.D. course in your School, but unfortunately you have no Ph.D. course at that time. He transferred to Toyama Medical and Pharmaceutical University and got a degree of Ph.D. in Toyama. We have many candidates who want to study in your Ph.D. course and support the establishment of Ph.D. course characteristic International Health Science in your Graduate School.

We are very welcome to have academic exchange between our and you graduate schools. I believe that the continuous interchanges of your peoples and ours will give multiple benefits to each other.

Sincerely yours,

Prof. Dr. Abdul Razak Thaha  
Dean, Faculty of Public Health  
Hasanuddin University

平成17年11月28日

琉球大学保健学研究科  
研究科長 外間登美子殿



バイオ21株式  
研究開発室 室長

岡田 吉央



### 琉球大学保健学研究科博士課程設置について

貴研究科におきましては保健学博士課程の設置を検討中と聞いております。  
貴研究科でこれまでになされた沖縄の生物資源・食材に関する基礎研究ならびに  
産学連携・共同研究・受託研究による県内企業との研究は沖縄の特徴ある研究と  
して、また沖縄の健康食品に対して科学的根拠を与えるものとして多大の貢献を  
されております。近年、人々の健康志向、天然物志向を反映して、沖縄産生物資  
源を利用した製品開発が活発になりつつありますが、その機能性・安全性の科学  
的裏付けの研究に関しまして大学の研究機関の果たす役割は極めて重要であり、  
また期待される場所でもあります。貴研究科博士課程の設置は沖縄の生物資源  
研究分野の人材育成、研究・開発のさらなる発展のために極めて重要であり、設  
置を実現されますよう強く要望いたします。当社といたしましても将  
来貴研究科博士課程修了生を採用する方向で検討を進めたく思います。

平成17年11月24日

琉球大学保健学研究科  
研究科長 外間登美子殿

沖縄県国頭郡本部町豊原 606-2  
株式会社 琉球バイオリソース開発  
企画開発室長 稲福 直

### 琉球大学保健学研究科博士課程設置について

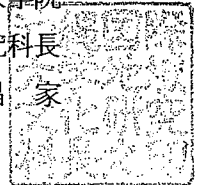
貴研究科におきましては保健学博士課程の設置を検討中と聞いております。  
貴研究科でこれまでになされた沖縄の生物資源・食材に関する基礎研究ならびに産学連携・共同研究・受託研究による県内企業との研究は沖縄の特徴ある研究として、また沖縄の健康食品に対して科学的根拠を与えるものとして多大の貢献をされております。近年、人々の健康志向、天然物志向を反映して、沖縄産生物資源を利用した製品開発が活発になりつつありますが、その機能性・安全性の科学的裏付けの研究に関しまして大学の研究機関の果たす役割は極めて重要であり、また期待されるところであります。貴研究科博士課程の設置は沖縄の生物資源研究分野の人材育成、研究・開発のさらなる発展のために極めて重要であり、設置を実現されますよう強く要望いたします。当社といたしましても将来貴研究科博士課程修了生を採用する方向で検討を進めたく思います。



冲国大院発第43号  
平成17年11月30日

琉球大学学長  
森田 孟進 殿

沖縄国際大学大学院  
地域文化研究科長  
石原 昌家



琉球大学大学院保健学研究科  
博士課程設置へのお願いについて

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から、当大学大学院の教育・研究につきましては、格別なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、貴大学におかれましては、平成19年度大学院保健学研究科保健学専攻博士課程設置に向けて、鋭意努力されていると伺いました。

御存知のように県内では福祉学や健康科学分野における博士の学位を有する人材が少なく、その意味ではたいへん時機にかなった博士課程の設置であると喜んでおります。

つきましては、貴大学大学院保健学研究科博士課程が開設された暁には、当大学大学院地域文化研究科修士課程人間福祉専攻の修了者等に貴大学大学院の博士課程に是非進学するよう勧めたいと存じます。

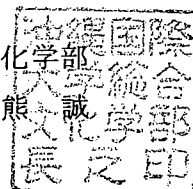
以上のことに鑑み、貴大学大学院保健学研究科博士課程の設置が一日も早く実現されますことを心待ちに致しております。

敬具

平成17年12月1日

琉球大学学長  
森田 孟進 殿

沖縄国際大学総合文化学部  
学部長 小熊 誠



**琉球大学大学院保健学研究科  
博士課程設置へのお願いについて**

謹啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から、当大学の教育・研究につきましては、格別なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、貴大学におかれましては、平成19年度大学院保健学研究科保健学専攻博士課程設置に向けて、鋭意努力されていると伺いました。

御存知のように県内では健康科学分野における博士の学位を有する人材が少なく、その意味ではたいへん時機にかなった博士課程の設置であると喜んでおります。

つきましては、当大学総合文化学部では貴大学大学院保健学研究科博士課程設置の暁には、博士課程の修了者もしくは保健学の学位取得者を、当学部の教育スタッフとして積極的に登用致したいと考えております。

以上の事情に鑑み、貴大学大学院保健学研究科博士課程の設置が一日も早く実現されますことを祈念致しております。

敬具

平成17年12月1日

琉球大学学長

森田 孟進 殿

名桜大学人間健康学部

学部長 石川 清治



琉球大学大学院保健学研究科  
博士課程設置へのお願いについて

謹啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から、当大学人間健康学部の教育・研究につきましては、格別なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

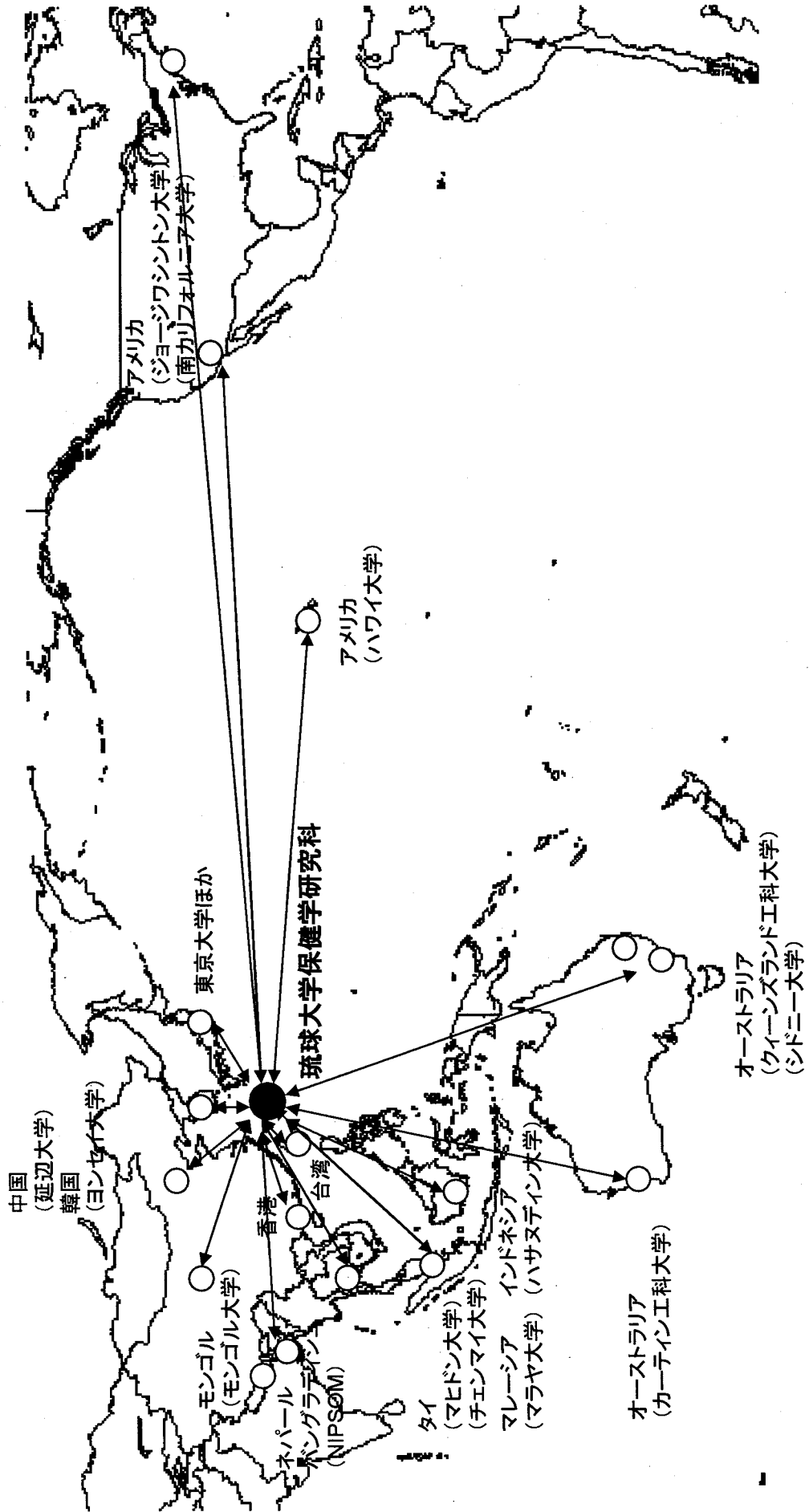
さて、貴大学におかれましては、平成19年度大学院保健学研究科保健学専攻博士課程設置に向けて、鋭意努力されていると伺いました。

御存じのように県内では健康科学分野における博士の学位を有する人材が少なく、その意味ではたいへん時機にかなった博士課程の設置であると喜んでおります。

つきましては、当大学人間健康学部として貴大学大学院保健学研究科博士課程設置の暁には、博士課程の修了者もしくは保健学の学位取得者を、当学部の教育スタッフとして積極的に登用致したいと考えております。

以上の事情に鑑み、貴大学大学院保健学研究科博士課程の設置が一日も早く実現されますことを祈念致しております。

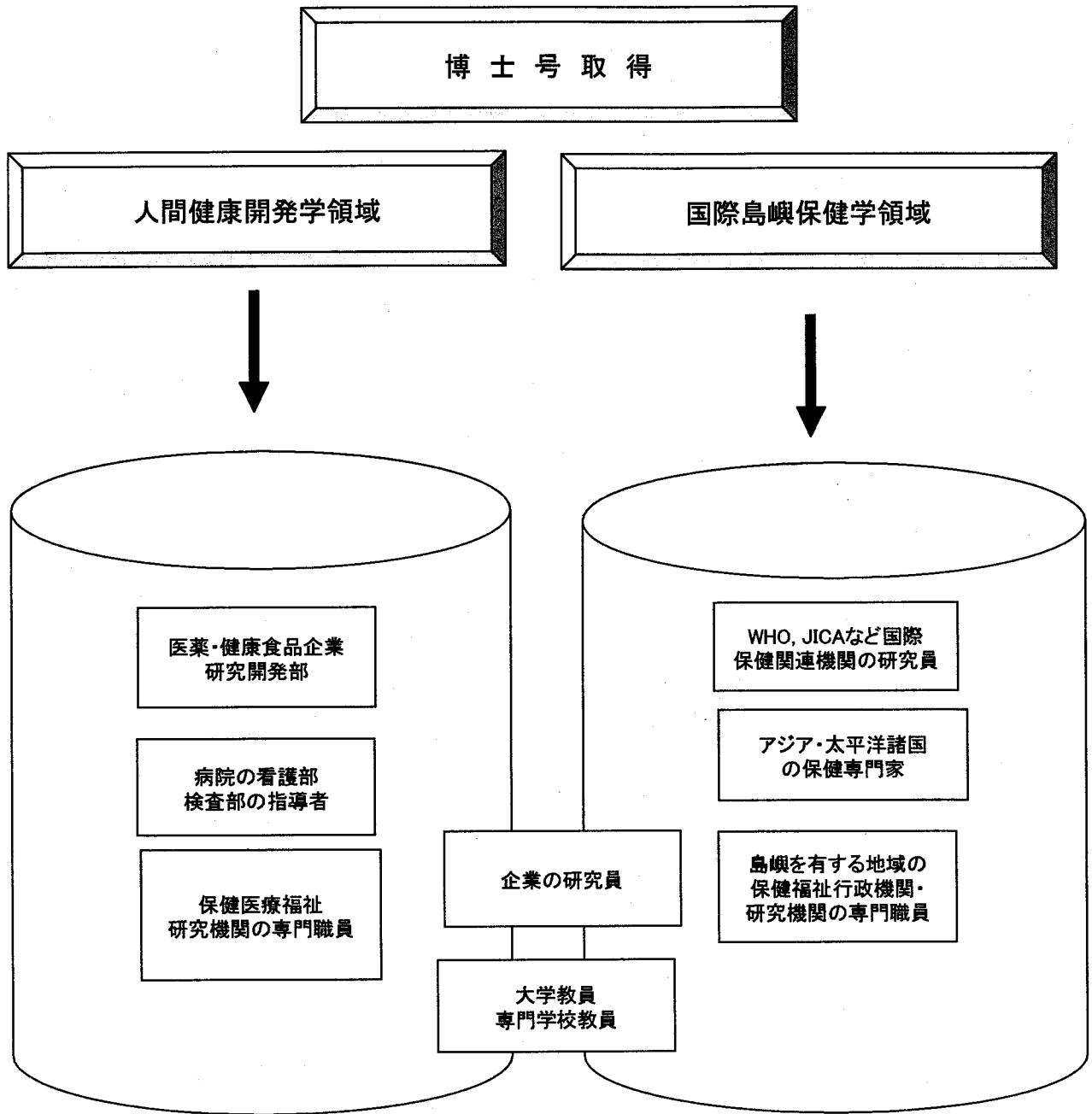
敬具



学術研究・教育ネットワーク概念図

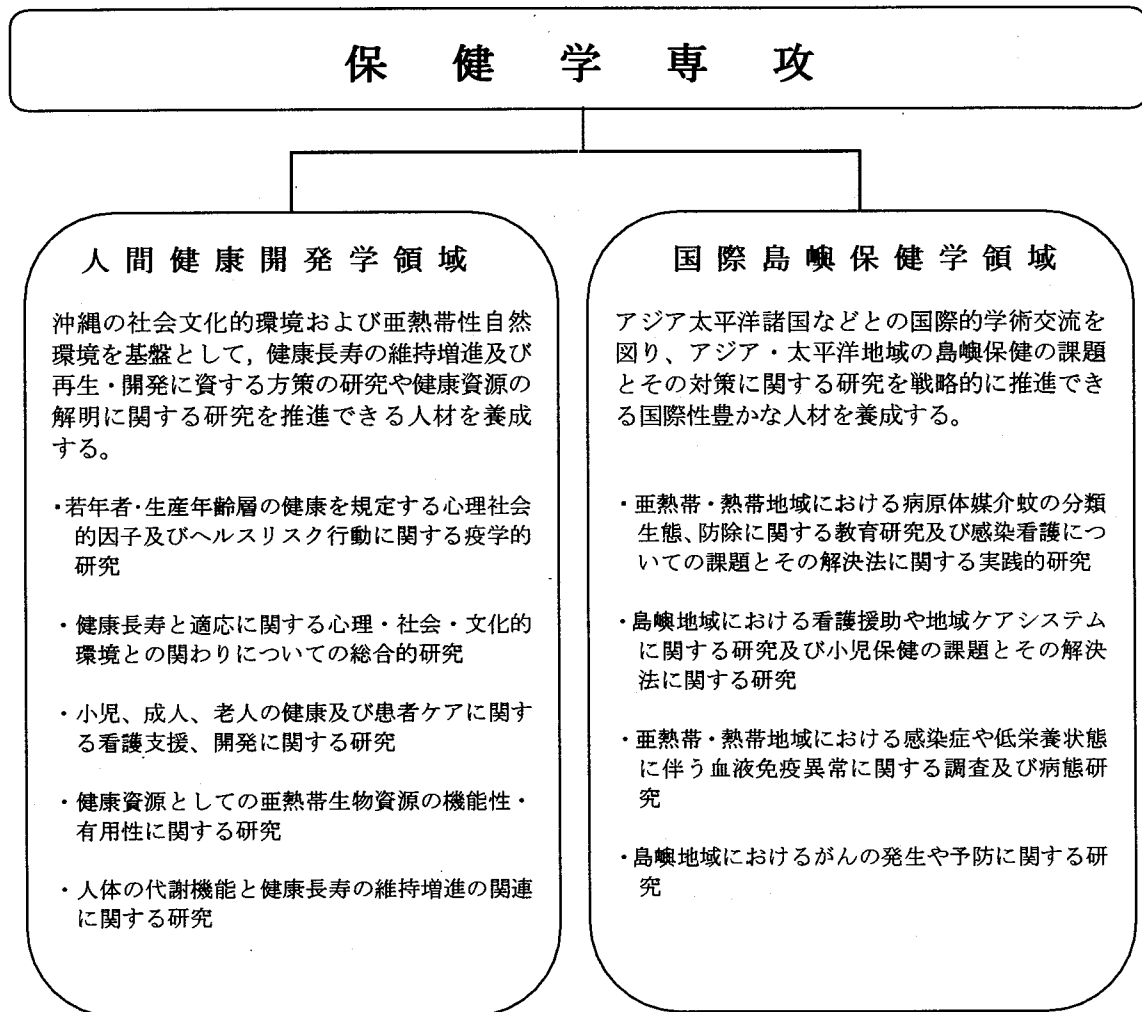


## 修了後の主な進路のイメージ図



## 保健学研究科博士後期課程

### 領域別に見た研究内容



履修モデル: 人間健康開発学領域  
健康増進開発学分野を選択した場合

健康長寿の維持・開発に資する保健学研究を推進するために、まず保健学特別講義を履修することによって、研究計画の立案や調査方法・実験方法の習得などの保健学研究における共通した基礎的能力を養う。人間健康開発学特論では沖縄の健康長寿と社会文化的環境や亜熱帯性自然環境との関わりや健康資源の開発の必要性等について幅広い知識と視野を身につける。また特別研究Ⅰ・Ⅱと専門分野に応じて指導教員が提供する特論を履修し、各々の研究テーマを追求する上で必要となる知識や技術を習得する。例えば、健康増進開発学分野では沖縄が直面している健康長寿に関する問題を疫学の立場から分析し、ヘルスプロモーションの観点から健康増進・再生する方法を開発できる能力を養う。

博士論文は、若年者や生産年齢層の健康の維持増進を図るために、リスク行動変容のための介入研究などの行動疫学研究などが想定できる。修了後の進路は、沖縄県内・日本国内外の大学の教員、官庁の研究者などで、健康長寿の維持増進・開発に資する方策の研究を推進できる人材として活躍する。

履修モデル: 人間健康開発学領域の健康増進開発学分野の場合

修了要件	年次	学期	必修科目		選択科目	研究・論文作成の予定	
博士 後期 課程 14 単位 以上	1	前期	保健学特別講義 (2単位)	人間健康開発学特論 (2単位)		研究テーマの決定 (8月頃)	
		後期			特別研究 (4単位)	健康増進開発学特論 (2単位)	博士論文計画書提出 (10月～12月)
	2	前期					
		後期			特別研究 (4単位)		実践的・実証的な研究活動
	3	前期					博士論文作成(4月～6月)  論文予備審査(7月)  論文の推敲
		後期					論文提出(12月)  論文本審査(2月)

(修了要件)

修了に必要な最終単位数は共通必修科目10単位(保健学特別講義2単位、特別研究8単位)、領域必修科目2単位、当該指導教員提供科目2単位の計14単位以上とする。この要件を満たした上で、必要な研究指導を受けながら論文を作成し、かつ論文審査及び最終試験に合格したのものには(保健学)の学位を授与する。

履修モデル: 国際島嶼保健学領域  
国際環境保健学分野を選択した場合

アジア・太平洋地域や沖縄県の健康問題の解決や感染症に関連した課題とその対策に関する研究を推進するために、まず保健学特別講義を履修し、研究計画の立案や調査・実験方法の習得などの保健学研究における共通した基礎的能力を養う。国際島嶼保健学特論では、島嶼県沖縄の保健医療の歴史や現状、発展途上国が抱えている種々の保健医療問題の解決を図る方法等についての幅広い知識と視野を身につける。また特別研究I・IIと専門分野に応じて指導教員が提供する特論を履修し、各々の研究テーマを追求する上で必要となる知識や技術を習得する。例えば、国際環境保健学特論では感染症流行の基本的な生態や熱帯・亜熱帯諸国の住民の生活習慣、蚊媒媒介性疾病の生態、それらの疾病の病原体を伝播する媒介動物の形態・生態学と感染予防、防圧のための媒介蚊対策を学ぶ。

博士論文は、アジア・太平洋・亜熱帯地域における疾病媒介蚊の生態と感染予防対策に関する研究が想定できる。修了後の進路は大学の教員・研究者および官庁の研究者、JICA・WHO専門職員などで、それぞれの地域の感染症とその対策に関する研究を戦略的に推進できる国際性豊かな人材として活躍する。

履修モデル: 国際島嶼保健学領域の国際環境保健学分野の場合

修了要件	年次	学期	必修科目		選択科目	研究・論文作成の予定
博士 後期 課程 14 単位 以上	1	前期	保健学特別講義 (2単位)	国際島嶼保健学特論 (2単位)		研究テーマの決定 (8月頃)
		後期			特別研究 I (4単位) 国際環境保健学特論 (2単位)	博士論文計画書提出 (10月～12月)
	2	前期				実践的・実証的な研究活動
		後期			特別研究 II (4単位)	
	3	前期				博士論文作成(4月～6月) 論文予備審査(7月) 論文の推敲
		後期				論文提出(12月) 論文本審査(2月)

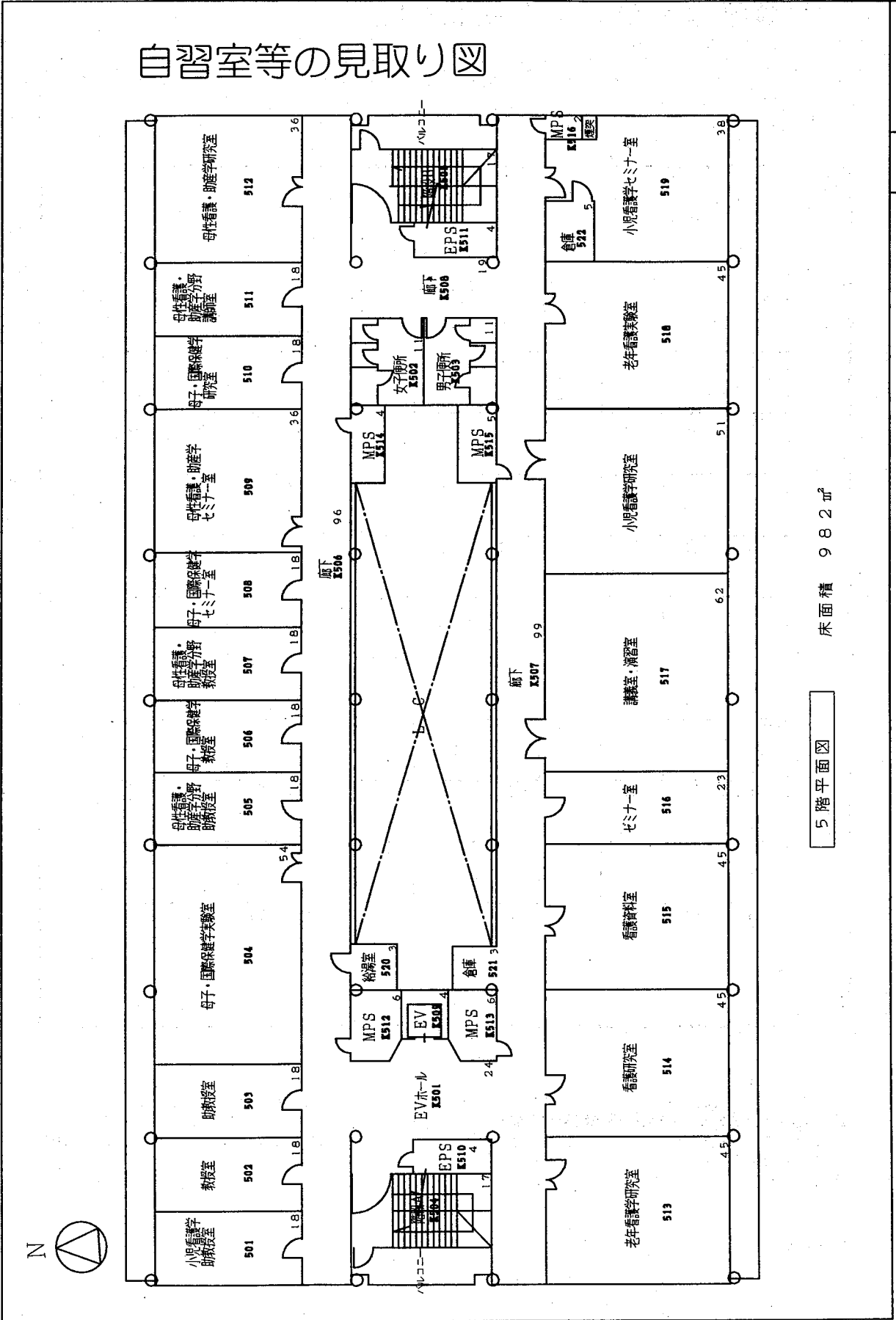
(修了要件)

修了に必要な最終単位数は共通必修科目10単位(保健学特別講義2単位、特別研究8単位)、領域必修科目2単位、当該指導教員提供科目2単位の計14単位以上とする。この要件を満たした上で、必要な研究指導を受けながら論文を作成し、かつ論文審査及び最終試験に合格したのものには(保健学)の学位を授与する。

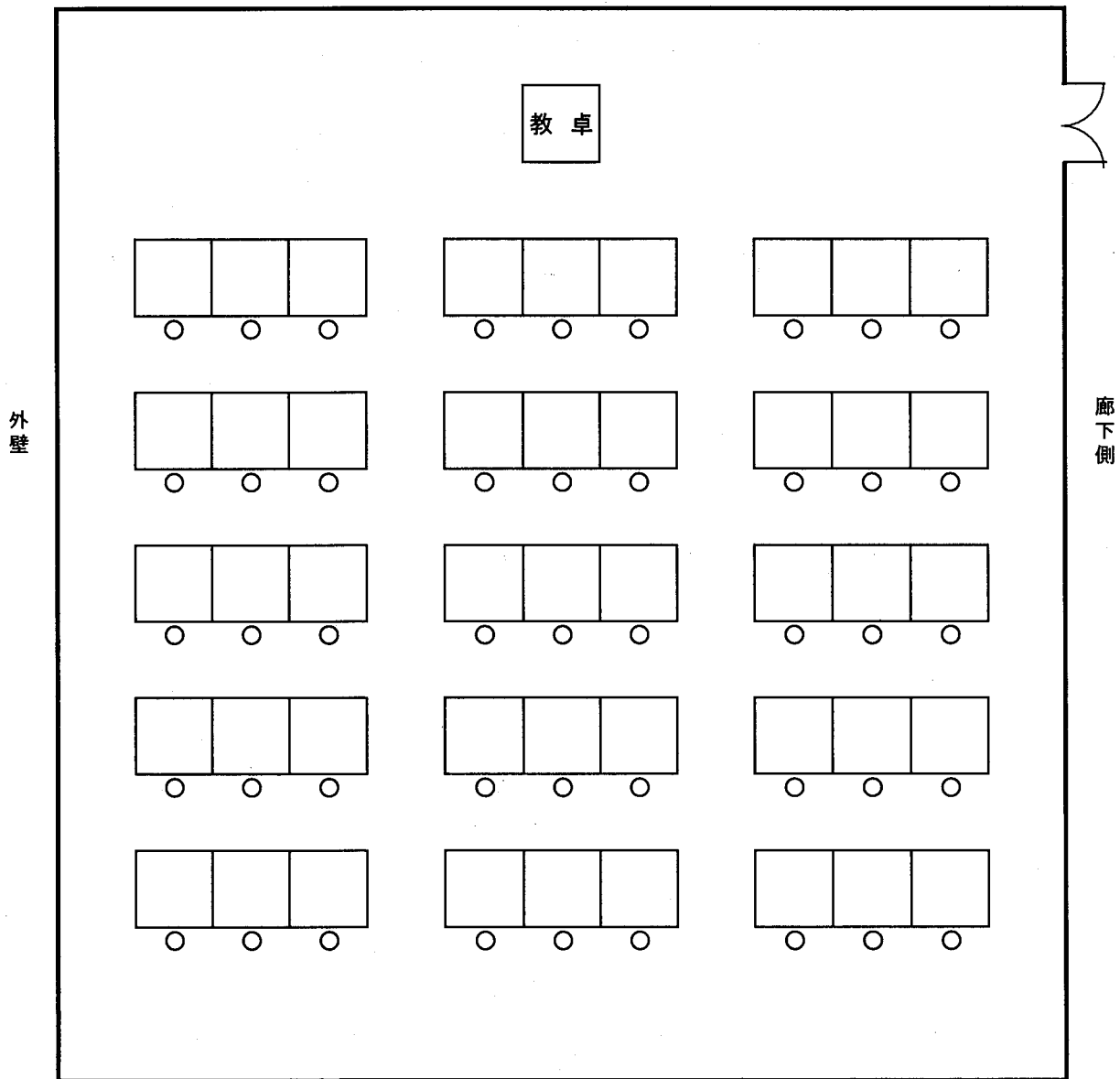
棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0400	琉球大学	013	上原団地	005

国立大学等施設実地調査(様式3)



# 講義室・演習室の見取り図



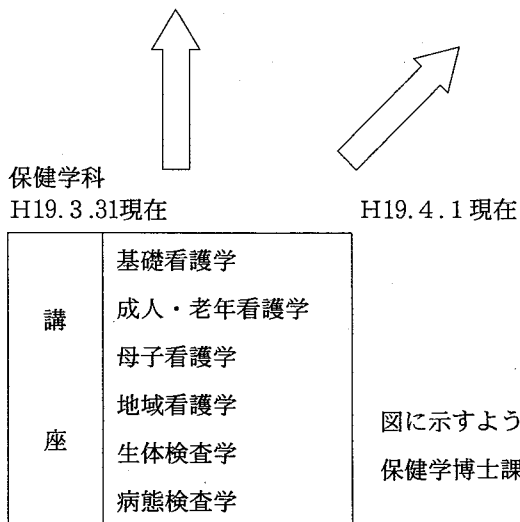
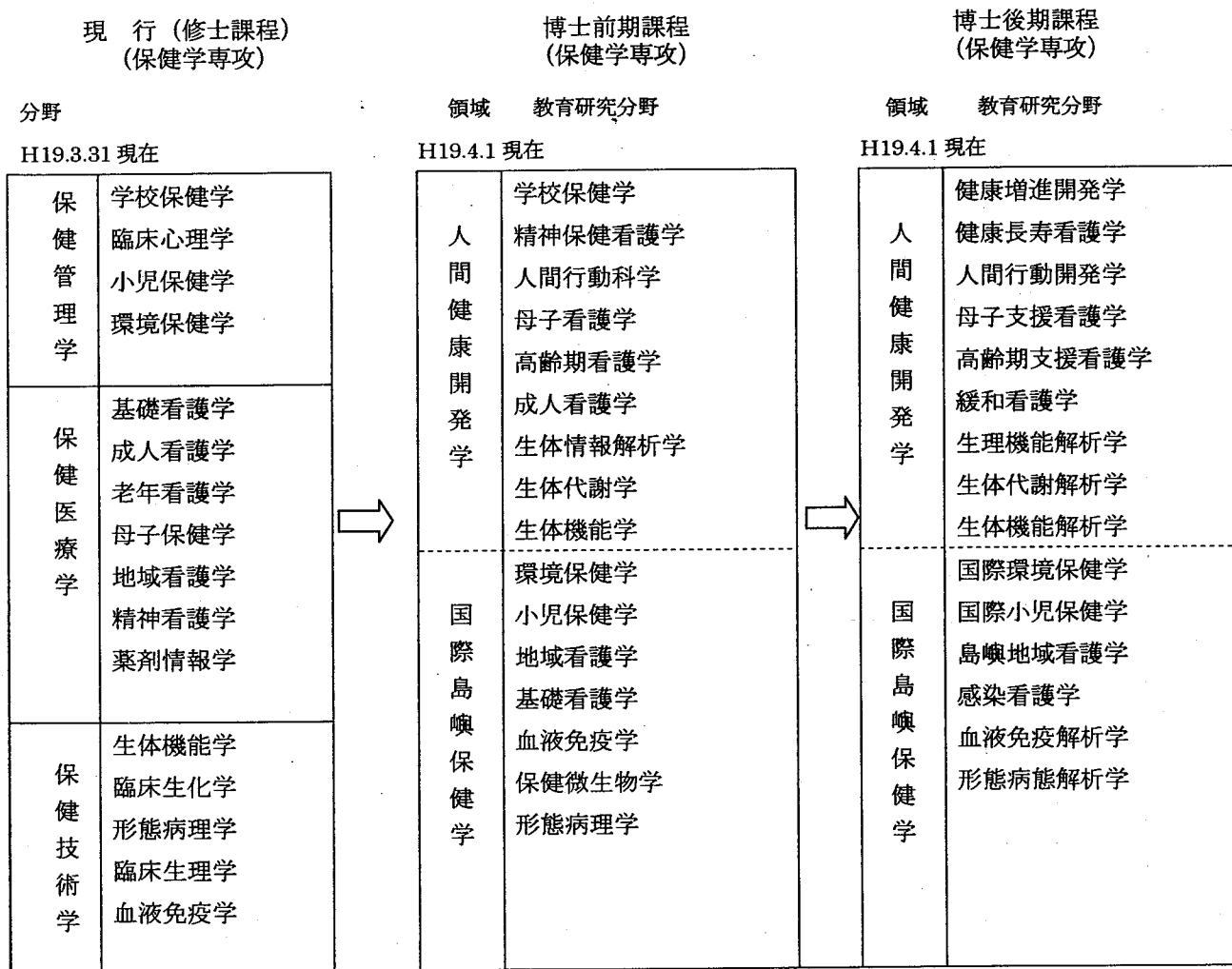
室名:講義室・演習室 (保健学科棟5階517教室)

面積: 62㎡

収容人数: 45人

既設の修士課程との関係図

博士課程設置に伴う移行計画図



図に示すように現行の修士課程を発展解消し、博士課程(前期、後期)を設置する。  
保健学博士課程の教育・研究組織は2領域15教育研究分野である。

## 受入学生のイメージ図

